

東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻看護学コース

年報
2015 年度（平成 27 年度）

Annual Report of
Course of Nursing, Health Sciences,
Tohoku University School of Medicine
2015

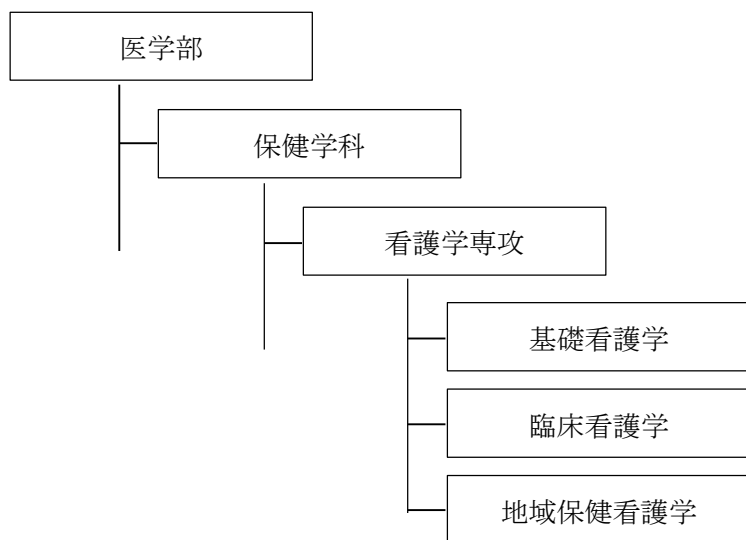
目次

1. 組織と分野	2
1-1. 組織図	2
1-2. 分野紹介	3
2. カリキュラム	16
2-1. 学部カリキュラム	16
2-2. 大学院カリキュラム	17
3. 教員一覧	19
4. 各種データ	21
4-1. 学部入試情報	21
4-2. 大学院入試情報	22
4-3. 学部卒業後の進路	23
4-4. 大学院修了後の進路	24
4-5. 大学院修了者の学位論文一覧	26
4-6. 業績数の推移	31
5. 研究業績	32
5-1. 原著論文・総説（査読あり）	32
5-2. 原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説	36
5-3. 著書	38
5-4. 国際学会発表	39
5-5. 国内学会発表	40
5-6. 外部資金獲得（主任研究）	48
5-7. 外部資金獲得（分担研究）	49
5-8. 外部資金獲得（その他）	50

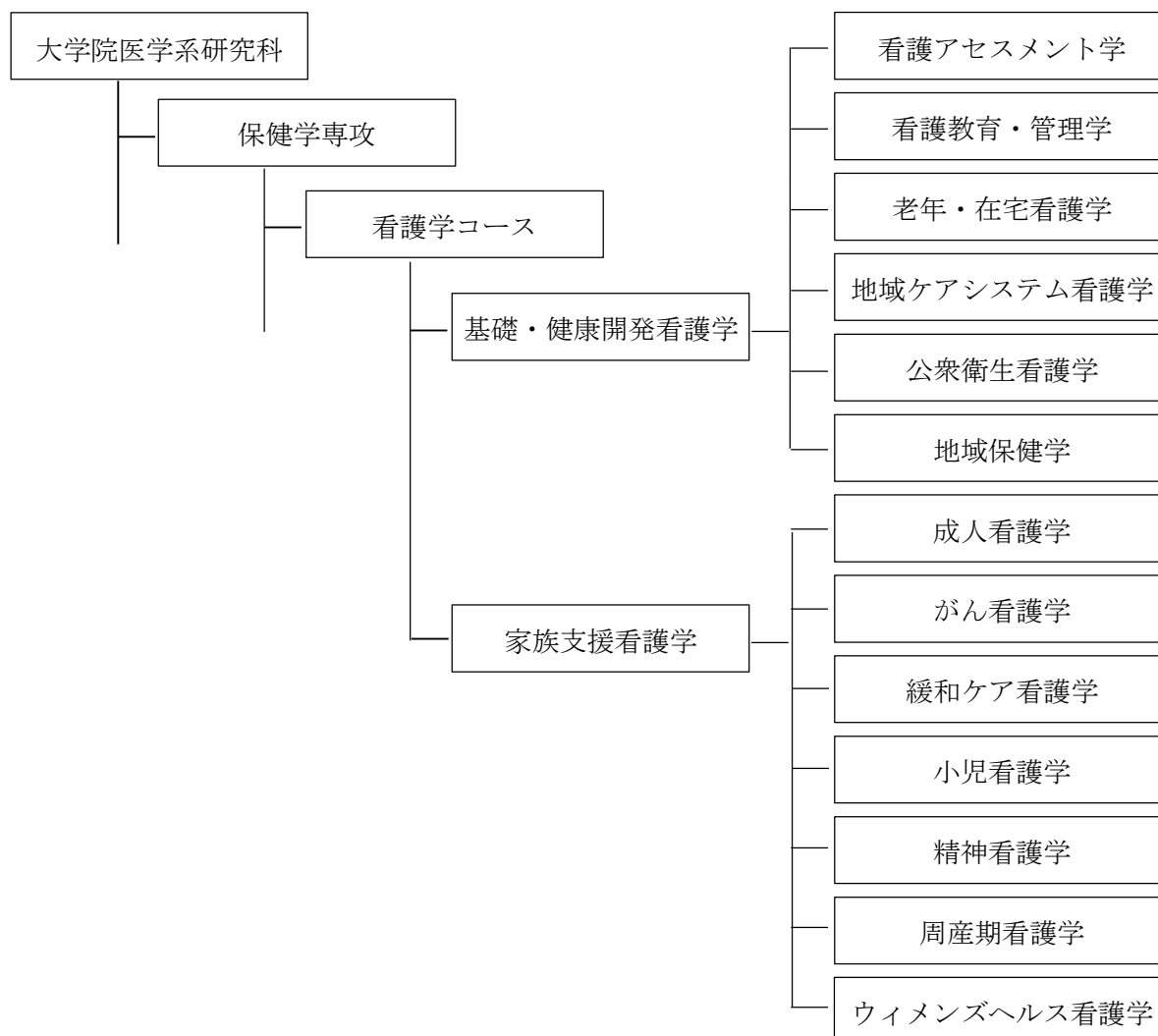
1. 組織と分野

1-1. 組織図（2015 年 4 月現在）

【医学部保健学科組織図】



【大学院医学系研究科保健学専攻組織図】



1-2. 分野紹介

研究分野名	看護アセスメント学分野
-------	-------------

1. 分野構成(2016年4月1日時点)

教授:丸山良子、講師:菅野恵美、助教:丹野寛大
大学院(博士課程)4名、大学院(修士課程)3名、卒業研究生10名、研究生0名

2. 主な研究テーマ

看護アセスメント学分野では、看護の対象となる人々への適切な日常生活援助を行うために必要なアセスメントの方法、さらに科学的根拠に基づく看護援助技術の開発およびその検証を行うことを目的としています。

【主な研究テーマ】

1. 生理学的指標を用いた看護技術やケアの検証
2. 性ホルモンと自律神経活動の関連性
3. 環境が生体に及ぼす影響
4. 免疫学的手法による皮膚創傷治癒過程に関する科学的実証

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- ・Tanno H, Kawakami K, Ritsu M, Kanno E, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Contribution of invariant natural killer T cells to skin wound healing. *Am J Pathol.* 2015;185(12):3248-57.
- ・Horiguchi M, Tanaka G, Ogasawara H, Maruyama R. Validation and gender-based comparison of the eating behavior scale for Japanese young adults. *Psychology.* 2014;5:2173-9.
- ・Sasaki K, Maruyama R. Consciously Controlled Breathing Decreases the High-Frequency Component of Heart Rate Variability by Inhibiting Cardiac Parasympathetic Nerve Activity. *Tohoku J Exp Med.* 2014;233(3): 155-63.
- ・Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Otomaru H, Hatanaka A, Sato S, Ishii K, Hayashi D, Shibuya N, Imai Y, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Neutrophil-derived tumor necrosis factor- α contributes to acute wound healing promoted by *N*-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. *J Dermatol Sci.* 2013;70(2):130-8.
- ・菅野恵美, 丹野寛大, 館正弘. 皮膚創傷治癒過程におけるbFGF産生へのTNF- α の関与. *日本褥瘡学会誌.* 2012;14(2):113-20.
- ・Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Tanno H, Toriyabe S, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Wound healing in skin promoted by inoculation with *Pseudomonas aeruginosa* PAO1: the critical role of tumor necrosis factor- α secreted from infiltrating neutrophils. *Wound Repair Regen.* 2011;19(5):608-21.
- ・Kanno E, Toriyabe S, Zhang L, Imai Y, Tachi M. Biofilm formation on rat skin wounds by *Pseudomonas aeruginosa* carrying the gene fluorescent protein gene. *Exp Dermatol.* 2010;19(2):154-6.
- ・芳賀麻有, 丸山良子. 日本古来の「香」が自立神経系に及ぼす影響. *日本看護技術学会誌.* 2010;9(3):34-9.
- ・Maruyama R. The effect of ambient particulate matter on cardiovascular responses. *Eurozoru Kenkyu.* 2008;23(3):187-192.

【主な著書】

- ・菅野恵美, 館正弘. ドレッシング材の選び方と使い分け. In: 宮地良樹(編). まるわかり 創傷治療のキホン. 東京: 南山堂; 2014. p. 151-59.
- ・大久保暢子, 菱沼典子, 縄秀志, 丸山良子, 山本真千子, 深井喜代子, et al. ケーススタディ看護形態機能学 臨床実践と人体の構造・機能・病態の知識をつなぐ. 菱沼典子, ed. 南江堂: 東京; 2010.

研究分野名	看護教育・管理学分野
-------	------------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:朝倉京子、助手:原ゆかり、事務補佐員 1 名
大学院(博士課程) 5 名、大学院(修士課程) 5 名、研究生 0 名、卒業研究生 5 名

2. 主な研究テーマ

1. 看護職の職業移動と心理社会的労働環境に関する研究
2. 看護現象のジェンダー分析に関する研究
3. 看護職の専門職的自律性、自律的な臨床判断、反省的思考に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵, 下條祐也. 日本語版職業コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌. 2015; 35: 63-71.
- ・Asakura T., Gee G. C, Asakura K. Assessing a culturally appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese Brazilians. International Journal of Cultural Studies. 2015; DOI:10.1080/17542863.2015.1074259
- ・朝倉京子, 籠玲子. 中期キャリアにあるジェネラリスト・ナースの自律的な判断の様相. 日本看護科学会誌, 2013;33(4):43-52.
- ・Tei-Tominaga M, Asakura T, Asakura K. Stigma towards nurses with mental illnesses: a study of nurses and nurse managers in hospitals in Japan. Int J Ment Health Nurs. 2013;23(4):316-25.
- ・Togari T, Satoh M., Otemori R, Yonekura Y, Yokoyama Y, Kimura M, Tanaka W, Yamazaki Y. Sence of coherence in mothers and children, family relationships and participation in decision-making at home: an analysis based on Japanese parent-child pair data. 2012;27(2):148-56.
- ・渡邊生恵, 杉山敏子. 一般病床患者と看護師による療養環境評価の特性. 日本看護研究学会雑誌. 2012;35(5):117-28.
- ・Asakura K., Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202.
- ・Watanabe I., Kuriyama S, Kakizaki M, Sone T, Ohmori-Matsuda K, Nakaya N, Hozawa A, Tsuji I. Green tea and death from pneumonia in Japan: the Ohsaki cohort study. Am J Clin Nutr. 2009;90(3):672-9.
- ・籠玲子,朝倉京子. 病院の外科病棟に勤務する看護師の役割認知とそれに関わる体験. 看護研究. 2008;41(1):61-72.

【主な受賞】

- ・Asakura K., Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202. (平成 23 年度東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門賞受賞)
- ・Shimojo Y., Asakura K., Satoh M, Watanabe I. Relationships between Work-family Organizational Culture, Organizational Commitment, and Intention to Stay in Japanese Registered Nurses. IOCH: Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep; Adelaide, Australia. (Student Award for the Best Poster 受賞)

研究分野名	老年・在宅看護学分野
-------	------------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:尾崎章子、講師:齋藤美華、助手:東海林志保

2. 主な研究テーマ

1. 高齢者の生活の質の向上に資する睡眠支援に関する研究
2. 定年退職後の高齢男性を対象とした地域活動への参加支援プログラムの開発
3. 高齢者の予想される死における看護職の看取り教育プログラム開発

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・尾崎章子,齋藤美華,東海林志保:老年看護学教育にライフヒストリー・インタビューをとりいれた学習成果. 東北大学医学部保健学科紀要. 2016;25(1):35-45.
- ・尾崎章子:地域看護に活かすインデックス 睡眠. 日本地域看護学会誌. 2016;19(1):84-87.
- ・西崎未和, 尾崎章子, 其田貴美枝, 畑中晃子, 御任充和子, 山本由香, 新井由希子:看護学基礎教育における退院支援実習の学習効果. 日本在宅看護学会誌. 2015;3(2):1-10.
- ・川原礼子,齋藤美華,坂川奈央,東海林志保:高齢者の「予想される死」における看護職による呼吸停止確認の現状と認識—全国老人保健・福祉施設の看護職への調査から—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2015;24(2):65-75.
- ・大森純子,三森寧子,小林真朝,小野若菜子,安齋ひとみ,高橋和子,宮崎紀枝,酒井太一,齋藤美華:公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-48.
- ・齋藤美華,坂川奈央,東海林志保,川原礼子:訪問看護師が実施した医行為における看護教育へのあり方. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(2):73-82.
- ・坂川奈央:米国高齢者施設の査察報告第 2 報—米国における要介護高齢者の生活実態と意思決定に関する考察—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2014;23(1):1-8.
- ・坂川奈央:米国高齢者施設の査察報告第 1 報—米国高齢者施設のケアの質の管理システムにみる我が国の課題—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2013;22(2):51-60.
- ・齋藤美華, 坂川奈央, 大槻久美, 川原礼子:高齢者の褥瘡ケアに関する訪問看護師の医行為の内容とその判断理由. 北日本看護学会誌. 2013;16(1):33-42.
- ・齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子:訪問看護師の裁量拡大に対する当該職種の見解の内容. 東北大学医学部保健学科紀要. 2012;21(1):33-39.
- ・川原礼子, 齋藤美華, 大槻久美:訪問看護場面の尿閉に対する医行為の実態およびその認識 アセスメント状況と看護師の判断でできると考え得る理由. 看護実践の科学. 2012;37(2):30-7.
- ・齋藤美華, 大槻久美, 川原礼子:高齢者の排便ケアに関する医行為が訪問看護師の判断で行えると考えた理由. 日本老年看護学会誌. 2012;16(2):65-71.
- ・齋藤美華, 齋藤美咲, 半沢みどり, 阿部由美, 角張範子, 齋藤真美, 大槻久美, 川原礼子:外来化学療法を受けている高齢がん患者の生活への思い. 北日本看護学会誌. 2010;13(1):21-9.

【主な著書】

- ・川原礼子, 齋藤美華 編著:新しい時代の看護実践を支える 老年看護学 —国家試験対応に基づく編集から—. 東京:青踏社;2015.

研究分野名	地域ケアシステム看護学分野
-------	---------------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授(兼任):大森純子、講師:原田奈穂子、助手:松永篤志
大学院(博士課程)0名、大学院(修士課程)0名、卒業研究生 0名

2. 主な研究テーマ

本分野では、地域の健康・生活課題に対応できる協働の地域保健活動方法論に関する研究や被災地の住民・関係者と協働したコミュニティ再生のための研究に取り組んでいます。また、2014 年 4 月に開設した大学院保健師養成コースの教育・研究にも携わっており、今後その成果を検証していきたいと考えます。

【主な研究テーマ】

1. 地域の底力を高める「地域への愛着メソッド」の汎用性開発
2. 原子力災害リスクに対する備えの看護職間ネットワーク構築に関するエスノグラフィー
3. 市民と看護職のパートナーシップによる People-Centered Care の評価指標の開発
4. 保健師の基礎・現任教育のための放射線教育モデルの構築と検証
5. 地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発
6. 介護予防
7. 地域包括ケア
8. 災害被災者・支援者に対する中長期的支援
9. 災害時のメンタルヘルス
10. 緊急時支援の質の保証と説明責任
11. 公衆衛生危機管理
12. 健康格差

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-48.
- ・大森純子, 小林真朝, 小野若菜子, 麻原きよみ. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014;40:105-11.
- ・大森純子, 小西恵美子, 麻原きよみ. 健康課題としての放射線防護 保健師による実際的な活動モデルに向けて・3 保健師の実践へのヒント①:ベラルーシ視察報告から学ぶ. 保健師ジャーナル. 2014;70(7):626-30.

【主な著書】

- ・大森純子. In: 齋藤清二, 山田富秋, 本山方子(編). 質的心理学フォーラム選書 1 インタビューという実践. 東京: 新曜社; 2014.
- ・大森純子. In: 佐伯和子(編). 衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版; 2014.

【主な学会発表】

- ・三森寧子, 高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第 3 報) —健康関連 QOL との関連性—. 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・酒井太一, 大森純子, 高橋和子, 三森寧子, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第 1 報) —“地域への愛着”尺度項目の検討—. 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 三森寧子, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第 2 報) —関連要因の検討—. 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.

研究分野名	公衆衛生看護学分野
-------	-----------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:大森純子、准教授:田口敦子、助手:竹田香織、研究補佐員 2 名
大学院(博士課程)5 名、大学院(修士課程)7 名、卒業研究生 10 名

2. 主な研究テーマ

米国の公衆衛生領域で主流となっている(CBPR:Community Based Participatory Research)という研究スタイルを用い、保健師など保健行政の関係職種や住民の方々と一緒に、「"地域への愛着"を育む健康増進プログラムの開発」、「近隣住民間の交流促進プログラムの開発」などに取り組み、個人変容と社会変容に参画しています。また、住民ボランティアと保健行政の関係職種がどのように協働していけばよいかについても探索しています。

【主な研究テーマ】

1. 文化と健康観・ヘルスプロモーションに関する研究
2. 地域への愛着と健康に関するプログラム開発, 地域への愛着を育む方法論(メソッド)開発
3. 行政と住民ボランティアの効果的な協働方法および評価に関する研究
4. 地域保健をめぐる政治・行政に関する研究

3. 主な研究業績(2014 年 1 月以降) ※2014 年 1 月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 高橋和子, 宮崎紀枝, 酒井太一, 齋藤美華. 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌. 2014;3(1):40-48.
- ・大森純子, 小林真朝, 小野若菜子, 麻原きよみ. コミュニティアセスメントの実践的演習の成果. 聖路加看護大学紀要. 2014;40:105-11.
- ・大森純子, 小西恵美子, 麻原きよみ. 健康課題としての放射線防護 保健師による実際的な活動モデルに向けて・3 保健師の実践へのヒント①:ベラルーシ視察報告から学ぶ. 保健師ジャーナル. 2014;70(7):626-30.
- ・Taguchi A, Nagata S, Naruse T, Nagata S, Yamaguchi T, Murashima S. Identification of the need for home visiting nurse: development of a new assessment tool Int J Integr Care. 2014;14.

【主な著書】

- ・大森純子. In: 齋藤清二, 山田富秋, 本山方子(編). 質的心理学フォーラム選書 1 インタビューという実践. 東京: 新曜社; 2014.
- ・大森純子. In: 佐伯和子(編). 衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版; 2014.

【主な学会発表】

- ・三森寧子, 高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第 3 報) —健康関連 QOL との関連性—. 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・酒井太一, 大森純子, 高橋和子, 三森寧子, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 宮崎紀枝, 安齋ひとみ, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第 1 報) —“地域への愛着”尺度項目の検討—. 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・高橋和子, 大森純子, 酒井太一, 三森寧子, 齋藤美華, 小林真朝, 小野若菜子, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 戸田亜紀子, 三笠幸恵. 向老期世代の“地域への愛着”を測定する尺度の開発(第 2 報) —関連要因の検討—. 第 2 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2014 Jan 12-13; 小田原.
- ・Masuyama M, Takeda K. "Instant Parliamentary Deliberations Are in Our Reach." The 2014 Annual Meeting of the American Political Science Association; 2014 Aug 28-31; D.C.

研究分野名	地域保健学分野
-------	---------

1. 分野構成(2016年4月1日時点)

教授(兼任):宮下光令、助教:青山真帆
大学院(博士課程)0名、大学院(修士課程)0名、卒業研究生0名

2. 主な研究テーマ (※研究テーマは2015年現在のもの)

がん・自己免疫疾患などの難治性慢性疾患の危険因子・予後因子を解明し、その成果を疾病予防活動や臨床の場に提供することを目的に研究に取り組んでいる。

【主な研究テーマ】

1. 各種がんの記述疫学・分析疫学
2. 自己免疫疾患の疫学
3. 疫学方法論に関する研究

3. 主な研究業績(2008年4月以降)

【主な研究論文】

- Nishino Y, Minami Y, Kawai M, Fukamachi K, Sato I, Ohuchi N, Kakugawa Y. Cigarette smoking and breast cancer risk in relation to joint estrogen and progesterone receptor status: a case-control study in Japan. Springerplus. 2014 Feb 3;3:65. doi: 10.1186/2193-1801-3-65.
- Seki T, Nishino Y, Tanji F, Maemondo M, Takahashi S, Sato I, Kawai M, Minami Y. Cigarette smoking and lung cancer risk according to histologic type in Japanese men and women. Cancer Sci. 2013;104(11):1515-22.
- Collaborative Group on Hormonal Factors in Breast Cancer (Kawai M, Minami Y, Tsuji I, Fukao A) Menarche, menopause, and breast cancer risk: individual participant meta-analysis, including 118 964 women with breast cancer from 117 epidemiological studies. Lancet Oncol. 2012;13(11):1141-51.
- Kawai M, Kakugawa Y, Nishino Y, Hamanaka Y, Ohuchi N, Minami Y. Reproductive factors and breast cancer risk in relation to hormone receptor and menopausal status in Japanese women. Cancer Sci. 2012;103(10):1861-70.
- Kawai M, Minami Y, Nishino Y, Fukamachi K, Ohuchi N, Kakugawa Y. Body mass index and survival after breast cancer diagnosis in Japanese women. BMC Cancer. 2012 Apr 17;12:149. doi:10.1186/1471-2407-12-149.
- Minami Y, Nishino Y, Kawai M, Kakugawa Y. Being breastfed in infancy and adult breast cancer risk among Japanese women. Cancer Causes Control. 2012;23(2):389-98.
- Minami Y, Hirabayashi Y, Nagata C, Ishii T, Harigae H, Sasaki T. Intake of vitamin B6 and dietary fiber and clinical course of systemic lupus erythematosus: a prospective study of Japanese female patients. J Epidemiol. 2011;21(4):246-54.
- Kawai M, Minami Y, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Alcohol consumption and breast cancer risk in Japanese women: the Miyagi Cohort study, Breast Cancer Res Treat. 2011;128(3):817-25.
- Kawai M, Minami Y, Kuriyama S, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Ishida T, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N. Adiposity, adult weight change and breast cancer risk in postmenopausal Japanese women: the Miyagi Cohort Study. Br J Cancer. 2010;103(9):1443-7.
- Minami Y, Tochigi T, Kawamura S, Tateno H, Hoshi S, Nishino Y, Kuwahara M. Height, urban-born and prostate cancer risk in Japanese men. Jpn J Clin Oncol. 2008;38(3):205-13.

研究分野名	成人看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:今谷 晃、講師:菊地史子
卒業研究生 2 名

2. 主な研究テーマ

1. 胃粘膜上皮細胞の分化制御と胃癌に関する研究
2. *Helicobacter pylori* に対する免疫応答に関する研究
3. 粘膜免疫応答による上皮細胞の細胞内シグナル伝達機構の解明
4. 上部消化管疾患と遺伝子多型に関する研究
5. 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーションに関する研究
6. 終末期リハビリテーションと患者・家族感情との関連に関する質的研究
7. 終末期リハビリテーションにおける看護職とリハビリテーション職の協働に関する研究
8. 看護師自身のケア評価とケア満足度に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

- 【主な受賞】
- ・ 佐藤典子, 佐藤しのぶ, 菊地淳子, 齋藤明美, 菊池愛, 佐々木知子, 菊地史子,
緩和ケア病棟で終末期リハを行っている患者に関わる家族の思い,
第 15 回東北緩和医療研究会青森大会; 2011 Sept 23 ; 青森. (ベストプレゼンテーション賞)
 - ・ 佐藤しのぶ, 穀田知秋, 菊池愛, 吉野恵美子, 佐藤典子, 齋藤明美, 畠山里恵, 菊地史子
緩和ケア病棟で終末期患者と家族に関わる看護師とリハビリテーションスタッフとの協働を考える,
第 18 回東北緩和医療研究会秋田大会 ; 2014 Oct 10; 秋田 (研究奨励賞)

研究分野名	がん看護学分野
-------	---------

1. 分野構成（2016年4月1日時点）

教授：佐藤富美子、助教：佐藤菜保子、助手：宮武ミドリ
大学院（博士課程）2名、大学院（修士課程）3名、卒業研究生3名

2. 主な研究テーマ

がん看護学分野は、がんの罹患や治療によって影響を受けた個人や家族のクオリティ・オブ・ライフ（Quality of Life:QOL）に関する看護理論の開発をテーマに研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 乳がん患者の術後上肢機能障害予防改善に向けた介入効果に関する研究
2. 膵癌患者の治療に伴う QOL 維持向上に関する研究
3. 前立腺がん術後患者のテレナーシング介入効果に関する研究
4. がん患者の治療選択プロセスにおける看護支援に関する研究
5. がん治療を受ける患者の症状マネジメントに関する研究
6. がん患者および家族のストレスと看護介入に関する研究

3. 主な研究業績（2008年4月以降）

【主な研究論文】

- ・ Sato F, Arinaga Y, Sato N, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer at 1-year follow-up: a prospective, controlled trial. *Tohoku J Exp Med*. 2016;238:229-36.
- ・ Sato F, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer: a controlled trial. *Tohoku J Exp Med*. 2014; 232:115-22.
- ・ Sato N, Suzuki N, Sasaki A, Aizawa E, Obayashi T, Kanazawa M, Mizuno T, Kano M, Aoki M, Fukudo S. Corticotropin-Rel Corticotropin-releasing hormone receptor 1 gene variants in irritable bowel syndrome. *PLoS ONE*. 2012;7(9):e42450.
- ・ 佐藤富美子. 術後1年までの乳がん体験者における患側上肢の苦痛に関連する要因の検討. 日本保健医療行動科学会年報. 2012;27:157-170.
- ・ 佐藤菜保子, 片寄友, 元井冬彦, 中川圭, 坂田直昭, 川口桂, 佐藤富美子, 海野倫明. 膵切除術後3ヶ月の患者 QOL 検討からみた症状介入の方略, 膵臓. 2015;30:654-662.

【主な著書】

- ・ 佐藤富美子. がん手術後合併症の観察と看護, 乳がん・婦人科がんの周術期ケア. 神田清子・二渡玉江編, 成人看護技術-がん・ターミナルケア, 東京, メジカルフレンド社; 2015; 112-21, 130-39.
- ・ 佐藤富美子. 生殖系機能障害のある患者の看護・乳がん患者の看護・前立腺がん患者の看護・子宮がん患者の看護. In: 黒田裕子（編）. 成人看護学第2版. 東京: 医学書院; 2013. p. 508-29.
- ・ 佐藤富美子. 乳がん患者のアセスメントと看護. In: 黒田裕子（編）. 成人看護学. 東京: 医学書院; 2009. p. 482-9.
- ・ 佐藤富美子. 頭頸部のアセスメント、眼のアセスメント、乳房のアセスメント. In: 小野田千枝子（監）. 高橋照子, 芳賀佐和子, 佐藤富美子（編）. 実践！フィジカル・アセスメントー看護者としての基礎技術 改訂第3版. 東京: 金原出版; 2008. p. 35-61, 94-100.
- ・ 【主な受賞】
- ・ 佐々木彩加, 佐藤菜保子, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審. 過敏性腸症候群におけるコルチコトロピン放出ホルモン関連遺伝子多型. *Japan Gut Club*. 2012 Nov 24; 東京. （特別奨励賞）

研究分野名 緩和ケア看護学分野

1. 分野構成(2016年4月1日時点)

教授:宮下光令、助教:佐藤一樹、事務補佐員2名、研究補助員1名
大学院(博士課程)2名、大学院(修士課程)2名、卒業研究生8名

2. 主な研究テーマ

緩和ケア看護学分野は、「がん」などの疾病により身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を抱える患者さまやご家族の QOL (Quality of Life: 生活の質) を維持し向上させることにより、患者さまやご家族が苦痛なく安心して生活することを支えるための看護の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 進行がん患者、家族の QOL 向上に向けた支援方法の開発
2. 緩和ケアや終末期ケアの質の評価と実態調査
3. 緩和ケアや終末期ケアに関する卒前・卒後教育に関する研究
4. がん以外の疾患に対する緩和ケアや終末期ケアに関する研究

3. 主な研究業績(2009年10月以降) ※2009年10月に分野新設のため

【主な研究論文】

- ・ Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden. J Clin Oncol. 2015 Feb 1;33(4):357-63.
- ・ Miyashita M, Morita T, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. A nationwide survey of quality of end-of-life cancer care in designated cancer centers, inpatient palliative care units and home hospices in Japan: the J-HOPE study. J Pain Symptom Manage. 2015 Jul;50(1):38-47.e3.
- ・ Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Sasaki Y, Narabayashi M, Wada T, Matsubara M, Takigawa C, Shinjo T, Suga A, Inoue S, Ikenaga M, Kohara H, Tsuneto S, Shima Y. The independent validation of Japanese version of EORTC QLQ-C15-PAL for advanced cancer patients. J Pain Symptom Manage. 2015 May;49(5):953-9.
- ・ Miyashita M, Kawakami S, Kato D, Yamashita H, Igaki H, Nakano K, Kuroda Y, Nakagawa K. The importance of good death components among cancer patients, the general population, oncologists and oncology nurses in Japan: Patients prefer "fighting against cancer." Support Care Cancer. 2015 Jan;23(1):103-10.
- ・ Sato K, Shimizu M, Miyashita M. Which quality of life instruments are preferred by cancer patients in Japan? Comparison of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-C30, and the Functional Assessment of Cancer Therapy-General. Support Care Cancer. 2014;22(12):3135-41.
- ・ Sato K, Inoue Y, Umeda M, Ishigamori I, Igarashi A, Togashi S, Harada K, Miyashita M, Sakuma Y, Oki J, Yoshihara R, Eguchi K. A Japanese region-wide survey of the knowledge, difficulties, and self-reported palliative care practices among nurses. Jpn J Clin Oncol. 2014;44(8):718-28.
- ・ Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. Lancet Oncol. 2013;14(7):638-46.

【主な著書】

- ・ 宮下光令, 佐藤一樹, 清水恵, et al. In 宮下光令(編). ナーシング・グラフィカ 成人看護学(6):緩和ケア 第2版. 大阪:メディカ出版; 2016. 310p

【主な受賞】

- ・ 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 岩淵正博, 木下寛也. 遺族の評価による終末期ケアの質評価尺度 Care Evaluation Scale と終末期患者の QOL 評価尺度 Good Death Inventory の非がん患者での信頼性・妥当性の検証. 第20回日本緩和医療学会学術大会; 2015 Jun 18-20; 横浜.(最優秀演題)

研究分野名

小児看護学分野

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:塩飽 仁、助教:鈴木祐子、助手(兼):菅原明子

大学院(博士課程後期) 4 名、大学院(博士課程前期) 3 名、卒業研究生 6 名

2. 主な研究テーマ

小児看護学分野は、子どもと家族を発達上のライフイベントに応じて支援する看護を追求している分野です。特に子どもと家族を心理・社会的に支える看護の研究、教育、実践に力点を置き、東北大学病院との **unification** や、学校、地域、医療機関、他大学などとの連携のもとに活動しています。

我々の分野の研究、教育、実践のおもなテーマは以下の通りです。

1. 子どもと家族を心理・社会的に支える看護支援の開発
2. 神経症や軽度発達障害の子どもの療育支援と家族へのメンタルヘルスケア
3. 悪性疾患の子どもと家族のトータルケア

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・佐藤幸子, 塩飽 仁, 遠藤芳子, 佐藤志保: 子どもの情動調整と心身症状の関連. 小児保健研究 2016;75(3):343-349
- ・入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 相墨生恵: Functional Assessment of Chronic Illness Therapy -Spiritual Well-Being-Non-Illness(Facit-Sp-Non-Illness)日本語版の信頼性・妥当性の検証. 東北文化学園大学看護学科紀要 2016;5(1):5-8
- ・木村智一, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子, 横山千恵, 鈴木千鶴: 児童養護施設の福祉職と施設長からみた児童養護施設で看護師と福祉職が一緒に働く利点. 北日本看護学会誌 2015;17(2):15-22
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 樋谷由美子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一: 看護師が抱く子どもの終末期ケアを行う上での障壁と困難. 日本小児看護学会誌 2014;23(3):49-55.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 木村智一: 治療が難しい状況にあると告げられた小児がんの子どもの両親は治療方針に関する意思決定をどのように行ったのか. 北日本看護学会誌 2014;17(1):11-17.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子: 看取りの時期にある小児がんの子どものとその親をケアする看護師が抱える葛藤. 日本小児看護学会誌. 2013;22(2):41-7.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵: 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どものに必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;8(1):38-49.
- ・名古屋祐子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 谷地館千恵: 遺族と医療者への面接から得られた治療が困難な時期にある小児がんの子どものを支える家族に必要な要素. 日本小児がん看護学会誌. 2013;(1):50-8.
- ・入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 和田 雪: 小児がん患児の父親が患児とのかかわりに抱く思い—小児がん患児の父親とその他の長期入院を要する患児の父親の比較—. 小児がん看護. 2012;7:28-38.

【主な著書】

- ・塩飽 仁, 井上由紀子: 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In: 奈良間美保, 丸光恵(編). 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2 小児臨床看護各論. 東京: 医学書院; 2015. 481-514.
- ・塩飽 仁ほか. 第 8 章 トータルケア 心理面へのケア「総論」「時期別ケア ; 診断時の心理と看護, 再発時の支援」, 特別な配慮が必要な問題「ボディイメージの変化, 小児がんのサイコオンコロジー」. In: 丸 光恵, 石田也寸志(監). ココからはじめる小児がん看護. 東京: へるす出版; 2009. 250-74.

【主な受賞】

- ・佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽 仁: 採血を受ける子どもの非効果的対処行動の関連要因の検討. 日本看護学研究学会雑誌. 2011;34(4):23-31. (日本看護研究学会平成 24 年度奨励賞)
- ・高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽 仁: 親の役割受容と親役割行動が子どもの評価する家族機能と精神的健康に与える影響. 日本看護学研究学会雑誌. 2009;32(2):55-63. (日本看護研究学会平成 22 年度奨励賞)

研究分野名	精神看護学分野
-------	---------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:齋藤秀光、講師:吉井初美、助教:光永憲香、助手:柴田裕希
大学院(修士課程) 1 名、卒業研究生 6 名

2. 主な研究テーマ

精神看護学分野は、看護師を主とする職業人、精神障害者およびその家族のメンタルヘルスを支援することを目的とした研究に取り組んでいる。精神障害者に関しては、精神疾患の発症ないし再発予防やスティグマ対策などの研究を、家族に関しては、精神科以外の患者の家族に対する研究を行っている。

【主な研究テーマ】

1. 看護師のメンタルヘルス支援
2. 精神疾患の発症予防および再発予防の支援
3. 精神障害者に対するスティグマ対策
4. 家族のメンタルヘルス支援

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・ 松本和紀, 濱家由美子, 光永憲香, 内田知宏, 砂川恵美, 大室則幸, 桂雅宏, 松岡洋夫. サイコーシス早期段階における CBT の活用. 精神神経学雑誌. 2013;115(4):390-98.
- ・ Yoshii H. Qualitative study of stigmatization of mental illness in the Japanese workplace: the experience of mentally disabled people. Health. 2013;5(9):1378-85.
- ・ 吉井初美, 北村信隆, 齋藤秀光, 赤澤宏平. 統合失調症患者の口腔衛生支援:レビュー. 総合病院精神医学. 2013;25:268-76.
- ・ Yoshii H., Watanabe Y, Kitamura H, Akazawa K. Schizophrenia knowledge and attitudes toward help-seeking among Japanese fathers and mothers of high school students. Health. 2013;5(3A):497-503.
- ・ Yoshii H., Watanabe Y, Mazumder AH, Kitamura H, Akazawa K. Stigma toward schizophrenia among parents of high school students. Global Journal of Health Science. 2013;5(6):46-53.
- ・ 齋藤秀光, 富永美弥, 高松幸生, 伊藤文晃, 井藤佳恵, 山崎尚人, 上埜高志, 島田 哲, 田島つかさ, 中保利通, 吉田寿美子, 松岡洋夫. 緩和ケアにおける家族への精神的支援. 精神医学. 2012;54:419-426.
- ・ 吉井初美. 職場での精神障害者に対するスティグマ問題. 産業精神保健. 2012;20(2):135-141.
- ・ 齋 二美子. 精神科熟練看護師が捉えたうつ病患者に対する退院支援を判断するための患者の反応と介入過程. 日本精神保健看護学会誌. 2011;20(1):10-20.
- ・ 山口紗穂, 上埜高志, 齋藤秀光, 佐藤喜根子, 菊地紗耶, 齋 二美子, 加藤道代, 明城光三, 上原茂樹, 小野寺 弘. 妊産褥婦の心理社会的状態に関する研究—宮城県内の助産師外来利用者を対象にして—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2011;20:81-89.

【主な著書】

- ・ 齋藤秀光. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2012 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2011. p. 153.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 精神保健福祉白書編集委員会(編). 精神保健福祉白書 2011 年度版. 東京: 中央法規出版株式会社; 2010. p.151.
- ・ 齋藤秀光. てんかん. In: 石井厚(監修). 新版精神保健第 2 版. 東京: 医学出版社; 2010. p. 91-7.

【主な受賞】

- ・ 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 松本和紀, 松岡洋夫. 顕在発症後早期の psychosis に対する心理的アプローチ—個別的な早期支援プログラムの試み— 第 5 回日本統合失調症学会; 2010 Mar 26-27; 福岡.(奨励賞)

研究分野名	周産期看護学分野
-------	----------

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:佐藤喜根子、准教授:小山田信子、助教:佐藤眞理
大学院(修士課程) 5 名、卒業研究生 8 名

2. 主な研究テーマ

周産期看護学分野は、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を含む次世代の育成に繋がる子育てなど、女性や家族の健康に関することを、その時代に応じつつ様々な価値観の変化に伴う問題解決に対して、周産期女性やご家族が安心して生活することを支えるための助産活動の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 周産期にある女性のメンタルヘルスケアに関する研究
2. 周産期医療体制の研究
3. 助産師の自立支援に必要な卒後教育体制に関する研究
4. 地方における看護・助産教育成立過程の研究
5. 学生の看護助産技術修得過程の研究
6. 災害後の母子保健活動に関する研究
7. 助産院における産後ケアに関する研究
8. 国際母子保健に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・Masahiro Tsuchiya, Jun Aida, Yoshihiro Hagiwara, Yumi Sugawara, Yasutake Tomata, Mari Sato, Takashi Watanabe, Hiroaki Tomita, Eiji Nemoto, Makoto Watanabe, Ken Osaka, Ichiro Tsuji. Panel study of periodontal disease and insomnia among Great East Japan Earthquake victims. The Tohoku Journal of Experimental Medicine.2015; 237(2):1-8.Total Pages: 8.
- ・Mari SATO, Fumi ATOGAMI, Yasuka NAKAMURA, Toyoko YOSHIZAWA. Experiences of Public Health Nurses in Remote Communities during the Great East Japan Earthquake. Health Emergency and Disaster Nursing.2015; 2(1): 1-10.Online ISSN2188-2061. Total Pages: 10
- ・佐藤喜根子・坂田あゆみ・佐藤恵・及川真紀・樋渡麻衣・西郡秀和・齋藤秀光・妊婦に対する温泉浴の効果の検証,研究年報 36,日本健康開発財団 2015.7-16.

【総説】

- ・佐藤喜根子:妊娠した女性の心理状況、「(「薬局」特集「妊婦の薬物治療管理ーリスクと不安を最小にするための基礎と実践ー)薬局、南山堂、2015. 66(1).119-123.
- ・佐藤喜根子:周産期医療の現状と東日本大震災後の影響ー将来に向けた産科医・助産師連携の取り組みー、日本医史学雑誌、一般社団法人 日本医史学会.2015.61(3).323-325.

【主な受賞】

- ・佐藤喜根子:妊婦に対する温泉浴の安全性に検証,般財団法人日本健康開発財団 最優秀賞 2015. 3.
- ・小山田信子: 東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞受賞 2016.3

研究分野名

ウィメンズヘルス看護学分野

1. 分野構成(2016 年 4 月 1 日時点)

教授:吉沢豊子、准教授:跡上富美、助教:中村康香、事務補佐員 2 名
大学院(博士後期課程)5 名、大学院(博士前期課程)3 名

2. 主な研究テーマ

女性の健康に係わることを広く研究し、一生涯にわたる女性の健康の向上およびQOLの向上を目指し、研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. 家族形成時期の coparenting に関する研究
2. 女性の妊孕力の認識に関する研究
3. 妊娠期女性の活動量と周産期アウトカムとの関連に関する研究
4. 女性の下肢浮腫、冷え症に関する研究

3. 主な研究業績(2008 年 4 月以降)

【主な研究論文】

- ・中村康香, 伊藤直子, 川尻舞衣子, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊子:就労妊婦の就労日と休日における身体活動量と生活活動パターン, 日本母性看護学会誌; 2016, 16(1), 33-40
- ・山口典子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子:無精子症の診断を受けた時の思い〜精巣内精子採取術・顕微強化精巣内精子採取術を選択した男性の語りから〜, 日本母性看護学会誌; 2016, 16(1), 49-56
- ・Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Committed to working for the community: experiences of a public health nurse in a remote area during the Great East Japan Earthquake. Health Care Women Int. 2015;36(11):1224-38.
- ・日下裕子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子. 婦人科がん手術後患者がリンパ浮腫予防教室後に抱く思い リンパ浮腫発症の可能性に直面して. 日本がん看護学会誌. 2015;29(1):5-13.
- ・Nakamura Y, Takeishi Y, Ito N, Ito M, Atogami F, Yoshizawa T. Comfort with motherhood in late pregnancy facilitates maternal role attainment in early postpartum. Tohoku J Exp Med. 2015;235(1):53-9.
- ・小川彩, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子, 武石陽子. 就労妊婦における妊娠期の快適性の特徴. 母性衛生. 2015;56(2):292-300.
- ・跡上富美, 中村康香, 武石陽子, 伊藤直子, 吉沢豊子. 妊娠先行型結婚をした女性の妊娠経過における快適性の変化. 日本母性看護学会誌. 2014;14(1):50-6.
- ・Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Assessment of maternal psychosocial adaptation in pre-labor hospitalized pregnant women in Japan. Nurs Rep. 2011;1(1):35-9.

【主な著書】

- ・吉沢豊子, 中村康香, 他. In: 吉沢豊子・鈴木幸子(編).新訂第 4 版マタニティアセスメントガイド, 真興交易医書出版部, 2016.3
- ・新道幸恵(監). 吉沢豊子, 跡上富美, 中村康香(企画). メディカエクセレント DVD シリーズ手掌圧が見てわかる! [分娩介助技術]-分娩介助のポジショニングと可視化された手掌圧で技術の向上に役立つ. 大阪: メディカ出版; 2013.
- ・吉沢豊子, 跡上富美, 中村康香, 他. In: 中野仁雄, 新藤幸恵, 遠藤俊子. 新体系看護学全書 母性看護学 1 母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護. 東京: メディカルフレンド社; 2012.

【主な受賞】

- ・中村康香. 平成 26 年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2015 Mar.
- ・武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. 第 6 回日本母性看護学会学術論文賞 2012.
- ・跡上富美. 平成 23 年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2012 Mar.

2. カリキュラム

2-1. 学部カリキュラム

【平成 28 年度 看護学専攻専門教育科目】

区 分			授 業 科 目	単位数 必 修 選 択		時間	開設年次・セメスター・時間数								備 考	
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
							1	2	3	4	5	6	7	8		
専 門 基 礎 科 目	人間の理解科目	医療解剖学	2		60	30	30									
		生体機能学Ⅰ	1		30	30										
		生体機能学Ⅱ	1		30		30									
		代謝学	2		30		30									
		遺伝情報学 ※ 1		1	15									15		
		免疫学	2		30			30								
		発達心理学	1		15	15										
		生命倫理	1		15		15									
		病理学	2		30			30								
		病原微生物学	1		30	30										
		臨床薬理学	2		30				30							
		家族関係論	1		15					15						
		公衆衛生学	1		30				30							
	健康の支援科目	社会保障制度論	1		15									15		
		保健医療福祉行政論	1		15					15						
		国際保健学	1		15									15		
		食生活論	1		15			15								
		運動生活論	1		15				15							
		リハビリテーション学	1		15				15							
		看護情報演習	1		30					30						
		医療経済学		1	15									15		
		看護管理・政策論	2		30									30		
		看護教育学	1		15									15		
		看護基幹科目	看護学原論Ⅰ	1		15	15									
			看護学原論Ⅱ	1		15		15								
			看護技術論Ⅰ	1		30			30							
	看護技術論Ⅱ		2		60			30	30							
	看護技術論Ⅲ		1		30					30						
	看護技術論Ⅳ		1		30					30						
	看護研究原論		1		15					15						
	基礎看護学実習Ⅰ		1		45		45									
	基礎看護学実習Ⅱ		2		90					90						
	看護展開科目		成人看護学原論	1		15			15							
			成人看護方法論Ⅰ	2		60				60						
			成人看護方法論Ⅱ	2		60					60					
			成人看護学実習Ⅰ	3		135						135				
			成人看護学実習Ⅱ	3		135						135				
			老年看護学原論	1		15			15							
			老年看護方法論	2		60				60						
			老年看護学実習	3		135						135				
			小児看護学原論	1		15			15							
			小児看護方法論	2		60				30	30					
			小児看護学実習	3		135						135				
			精神看護学原論	1		15				15						
			精神看護方法論	2		60					60					
			精神看護学実習	3		135						135				
			女性健康科学原論	1		15				15						
			母性看護方法論	2		60					60					
			母性看護学実習	3		135						135				
	地域看護学原論		1		15			15								
	地域看護方法論		2		45				45							
	地域看護学実習		1		45					45						
	在宅看護論		1		30						30					
	緩和ケア看護論		1		15						15					
	総合科目		助産学原論 ※ 1		1	15						15				
			助産診断学 ※ 1		2	60						60				
		助産技術学 ※ 1		3	90						30	60				
		助産管理論 ※ 1		1	15								15			
		新生児看護論 ※ 1		1	30					30						
		助産学実習 ※ 1		8	360							180	180			
		総合看護学実習	2		90							90				
		学術英語	1		15					15				15		
		チーム医療	1		15											
		卒業研究	3		90						30	30	30			

卒業要件：全学教育科目 41 単位、専門教育科目 86 単位（専門基礎科目 27 単位、専攻専門科目 59 単位）、合計 127 単位以上修得

※開設セメスター等は変更する場合もあるので、その年度の時間割やシラバスで確認してください。

2-2. 大学院カリキュラム

【平成 28 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、前期 2 年の課程）】

科 +M14+A4:N 65	授業科目	一般コース		代表教員	科目区分	授業科目	一般コース		代表教員
		必修	選択				必修	選択	
共通選 択科 目	医療倫理学	1	2	浅井	基礎・健康開 発看護学 領域	看護アセスメント学特論Ⅰ	2	丸山	
	看護学研究方法論	2	2	吉沢		看護アセスメント学特論Ⅱ	2	丸山	
	看護学研究のための統計学Ⅰ	2	2	宮下		看護アセスメント学セミナー	4	丸山	
	看護倫理	2	2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅰ	2	朝倉	
	理論看護学アプローチ	2	2	朝倉		看護教育・管理学特論Ⅱ	2	朝倉	
	看護科学Ⅰ	2	2	朝倉		看護教育・管理学特論セミナー	4	朝倉	
	医療教育論	2	2	小山田		老年・在宅看護学特論Ⅰ	2	尾崎	
	医療・看護政策論	2	2	森森		老年・在宅看護学特論Ⅱ	2	尾崎	
	がん科学	2	2	今谷		老年・在宅看護学セミナー	4	尾崎	
	がん診療トレーニング	2	2	今谷		地域ケアシステム看護学特論Ⅰ	2	大森	
	先端放射線科学概論	2	2	町田		地域ケアシステム看護学特論Ⅱ	2	大森	
	検査医学概論	2	2	林		地域ケアシステム看護学セミナー	4	大森	
	災害医学概論	2	2	張替		地域保健学セミナー	4	(兼) 宮下	
	医用動物学	1	2	三好		公衆衛生看護学特論Ⅰ	2	大森	
	分子・遺伝生物学Ⅰ	1	2	中山(啓)		公衆衛生看護学特論Ⅱ	2	大森	
	医学統計学入門	2	2	山口		公衆衛生看護学セミナー	4	大森	
	医学データ解析入門	2	2	山口		公衆衛生看護学原論	2	大森	
特別研究科目	論文研究	1	0	各指導教授	看護学 コース (保健師必 修科目) (保健師選 択科目)	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2	田口	
	課題研究	5	5	各指導教員		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	4	田口	
専門科目						地域ケアシステム看護学活動論Ⅰ	4	大森	
						地域ケアシステム看護学活動論Ⅱ	4	大森	
						疫学	2	大森	
						保健統計学	2	大森	
						保健医療福祉行政特論	3	大森	
						公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	田口	
						公衆衛生看護学実習Ⅱ	2	田口	
						地域ケアシステム看護学実習Ⅰ	3	原田	
						地域ケアシステム看護学実習Ⅱ	3	原田	
						公共哲学	2	藤原(真)	
						社会システム論	2	徳川[情報]	
						環境保健論	2	大森	
						災害メンタルヘルス論	2	富田[災害]	
					看護学 コース 家族支援 看護学 領域	コンサルテーション論	2	塩飽	
						臨床薬理学	2	今谷	
						フィジカルアセスメント	2	佐藤(富)	
						病態生理学	2	塩飽	
						がん看護学特論Ⅰ	2	佐藤(富)	
						がん看護学特論Ⅱ	2	佐藤(富)	
						がん看護学セミナーⅠ	2	佐藤(富)	
						がん看護学セミナーⅡ	2	佐藤(富)	
						緩和ケア看護学特論Ⅰ	2	宮下	
						緩和ケア看護学特論Ⅱ	2	宮下	
						緩和ケアトレーニング	1	宮下	
						緩和ケア看護学セミナーⅠ	2	宮下	
						緩和ケア看護学セミナーⅡ	2	宮下	
						がん看護専門看護学実習Ⅰ	2	佐藤(富)	
						がん看護専門看護学実習Ⅱ	6	佐藤(富)	
						がん看護専門看護学実習Ⅲ	2	宮下	
						小児看護学特論Ⅰ	2	塩飽	
						小児看護学特論Ⅱ	2	塩飽	
						小児看護学セミナーⅠ	4	塩飽	
						小児看護学セミナーⅡ	2	塩飽	
						小児看護学セミナーⅢ	2	塩飽	
						小児専門看護学実習Ⅰ	2	塩飽	
						小児専門看護学実習Ⅱ	8	塩飽	
					看護学 コース リゾン精 神看護学 領域	リゾン精神看護論	2	斎藤(秀)	
						家族のメンタルヘルス論	2	斎藤(秀)	
						精神保健看護学セミナー	4	斎藤(秀)	
						周産期看護学特論	2	佐藤(喜)	
						周産期メンタルヘルスケア論	2	佐藤(喜)	
						周産期看護学セミナー	4	佐藤(喜)	
						女性生涯看護学特論Ⅰ	2	吉沢	
						女性生涯看護学特論Ⅱ	2	吉沢	
						ウィメンズヘルス看護学セミナー	4	吉沢	

【平成 28 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、後期 3 年の課程）】

科目区分		授業科目	必修	選択	代表教員	科目区分		授業科目	必修	選択	代表教員
共通科目	共通選択科目	健康科学論		2	高橋（和） 丸山 齋藤(春)	看護学コース	基礎・健康開発看護学セミナーⅠ		2	丸山	
		看護科学論Ⅱ		2	朝倉		基礎・健康開発看護学セミナーⅡ		2	尾崎	
		看護科学論Ⅲ		2	吉沢		家族支援看護学セミナーⅠ		2	塩飽	
		分子医科学		2	林		家族支援看護学セミナーⅡ		2	吉沢	
		社会・環境医学		2	藤森		基礎・健康開発看護学特論		2	丸山	
							家族支援看護学特論		2	塩飽	
特別研究科目		保健学論文研究	8		各指導教授						

3. 教員一覧（2016 年 4 月現在）

【基礎・健康開発看護学領域】

看護アセスメント学

教授	丸山良子	（看護師・保健師、博士（医学））
講師	菅野恵美	（看護師・保健師、博士（医学））
助教	丹野寛大	（看護師・保健師、博士（医科学））

看護教育・管理学

教授	朝倉京子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助手	原ゆかり	（看護師・保健師）学士（看護学）

老年・在宅看護学

教授	尾崎章子	（看護師・保健師、博士（看護学））
講師	齋藤美華	（看護師・保健師、博士（看護学））
助手	東海林志保	（看護師・保健師）、学士（看護学）

地域ケアシステム看護学

教授(兼)	大森純子	（看護師・保健師、博士（看護学））
講師	原田菜穂子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助手	松永篤志	（看護師・保健師、修士（保健学））

公衆衛生看護学

教授	大森純子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助教	田口敦子	（看護師・保健師、博士（医学））
助手	竹田香織	（修士（法学））

地域保健学

教授(兼)	宮下光令	（看護師、保健師、博士（保健学））
助教	青山真帆	（看護師、保健師、助産師、博士（看護学））

【家族支援看護学領域】

成人看護学

教授	今谷晃	（医師、博士（医学））
講師	菊地史子	（看護師、博士（障害科学））

がん看護学

教授	佐藤富美子	（看護師・保健師、博士（看護学））
助教	佐藤菜保子	（看護師、博士（医学））
助手	宮武ミドリ	（看護師・準学士（看護学））

緩和ケア看護学

教授	宮下光令	（看護師・保健師、博士（保健学））
助教	佐藤一樹	（看護師・保健師、博士（保健学））

小児看護学

教授	塩飽仁	（看護師・保健師、博士（医学））
助教	鈴木祐子	（看護師・保健師、修士（看護学））
助手	菅原明子	（看護師・修士（看護学））

※東北大学病院助手と兼務

精神看護学

教授	齋藤秀光	(医師、博士(医学))
准教授	吉井初美	(看護師・精神保健福祉士、博士(医学))
助教	光永憲香	(看護師・保健師、修士(看護学))
助手	柴田裕希	(看護師・保健師、学士(看護学))

周産期看護学

教授	佐藤喜根子	(看護師・助産師、博士(教育学))
准教授	小山田信子	(看護師・助産師、修士(看護学))
助教	佐藤真理	(看護師・助産師、博士(看護学))

ウイメンズヘルス看護学

教授	吉沢豊子	(看護師・助産師・保健師、博士(看護学))
准教授	跡上富美	(看護師・助産師・保健師、博士(健康科学))
助教	中村康香	(看護師・助産師・保健師、博士(看護学))

※学位の記載形式は、「学位(専攻分野)」で統一した

(例えば、実際に授与された学位は「博士(医学)」ではなく「医学博士」である場合がある)

4. 各種データ

4-1. 学部入試情報

【一般入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 16 年度入学試験（前期）	50	130	2.6 倍	54	51
平成 16 年度入学試験（後期）	20	140	7.0 倍	20 (1)	18
平成 17 年度入学試験（前期）	50	120	2.4 倍	56	53
平成 17 年度入学試験（後期）	20	110	5.5 倍	22	19
平成 18 年度入学試験（前期）	50	91	1.8 倍	56	51
平成 18 年度入学試験（後期）	20	108	5.4 倍	24 (2)	19
平成 19 年度入学試験（前期）	50	111	2.2 倍	56	52
平成 19 年度入学試験（後期）	20	88	4.4 倍	25 (1)	17
平成 20 年度入学試験	55	114	2.1 倍	56	53
平成 21 年度入学試験	55	123	2.2 倍	57	54
平成 22 年度入学試験	55	167	3.0 倍	56	52
平成 23 年度入学試験	55	156	2.8 倍	58	57
平成 24 年度入学試験	55	140	2.5 倍	56	53
平成 25 年度入学試験	55	134	2.4 倍	58	52
平成 26 年度入学試験	55	123	2.2 倍	60	55
平成 27 年度入学試験	55	153	2.8 倍	60	53
平成 28 年度入学試験	54	126	2.3 倍	58	55

※「合格者」は追加合格者の人数を含まない、() 内は追加合格者の人数を示す

【AO 入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 20 年度入学試験（AO）	15	55	3.7 倍	19	19
平成 21 年度入学試験（AO）	15	43	2.9 倍	17	17
平成 22 年度入学試験（AO）	15	54	3.6 倍	20	20
平成 23 年度入学試験（AO）	15	49	3.3 倍	17	17
平成 24 年度入学試験（AO）	15	57	3.8 倍	15	15
平成 25 年度入学試験（AO）	15	35	2.3 倍	16	16
平成 26 年度入学試験（AO）	15	34	2.3 倍	15	15
平成 27 年度入学試験（AO）	15	40	2.7 倍	16	16
平成 28 年度入学試験（AO）	16	35	2.2 倍	17	17

4-2. 大学院入試情報

【修士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者		
					全体	保健師 選択	専門看護師 コース
平成 20 年度入学試験	24	21	0.9 倍	17	17	－	1
平成 21 年度入学試験	24	13	0.5 倍	11	10	－	3
平成 22 年度入学試験	24	21	0.9 倍	16	14	－	3
平成 23 年度入学試験	24	15	0.6 倍	13	13	－	5
平成 24 年度入学試験	24	13	0.5 倍	12	11	－	3
平成 25 年度入学試験	24	11	0.5 倍	9	9	－	2
平成 26 年度入学試験	24	15	0.6 倍	11	11	1	4
平成 27 年度入学試験	24	22	0.9 倍	19	18	1	6
平成 28 年度入学試験	24	23	1.0 倍	13	13	5	1

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

【博士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 22 年度入学試験	10	4	0.4 倍	4	4
平成 23 年度入学試験	10	5	0.5 倍	4	4
平成 24 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 25 年度入学試験	10	12	1.2 倍	10	8
平成 26 年度入学試験	10	6	0.6 倍	4	3
平成 27 年度入学試験	10	13	1.3 倍	10	10
平成 28 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

4-3. 学部卒業後の進路

【国家試験受験資格取得状況（新卒者）】

	保健師	助産師	看護師
平成 19 年度卒業	73	20	63
平成 20 年度卒業	76	15	66
平成 21 年度卒業	73	15	63
平成 22 年度卒業	80	16	70
平成 23 年度卒業	69	13	66
平成 24 年度卒業	73	15	71
平成 25 年度卒業	69	13	69
平成 26 年度卒業	76	13	76
平成 27 年度卒業	—	13	64

※ 助産師コースは選抜制

【国家試験合格状況（新卒者+既卒者）】

	保健師			助産師			看護師		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成 19 年度施行	73	69	95%	20	19	95%	64	63	98%
平成 20 年度施行	77	77	100%	16	16	100%	67	65	97%
平成 21 年度施行	73	68	93%	15	8	53%	63	63	100%
平成 22 年度施行	81	79	98%	19	19	100%	70	70	100%
平成 23 年度施行	73	70	96%	13	13	100%	66	66	100%
平成 24 年度施行	75	74	99%	16	15	94%	71	68	96%
平成 25 年度施行	70	67	96%	14	12	86%	72	72	100%
平成 26 年度施行	78	78	100%	14	14	100%	76	75	99%
平成 27 年度施行	—	—	—	13	13	100%	66	65	99%

【学部卒業後の進路】

	卒業数	就職				進学		その他
		看護師	助産師	保健師	一般職	大学院	各種学校・大学等	
平成 19 年度卒業	73	35	14 (1)	8	1	8 (1)	5	3
平成 20 年度卒業	76	38	9	14	2	6	5	2
平成 21 年度卒業	73	45 (1)	8 (1)	8 (1)	2	9 (1)	2	1
平成 22 年度卒業	80	62 (11)	15 (11)	6	0	4	3	1
平成 23 年度卒業	69	44 (4)	12 (4)	12	1	1	1	2
平成 24 年度卒業	73	49 (3)	12 (3)	5	1	7	1	1
平成 25 年度卒業	69	42 (1)	11 (1)	9	0	8	0	0
平成 26 年度卒業	76	49	9	10	1	5	2	0
平成 27 年度卒業	65	40	10	—	0	10	2	3

※ () は、重複してカウントした人数

4-4. 大学院修了後の進路

【修士課程】

	学位取得	博士課程 進学	大学教員	看護学校 教員	看護師・ 助産師	保健師	その他
平成 21 年度修了	8	1	1	0	5	0	1
平成 22 年度修了	10	1	1	0	6	2	0
平成 23 年度修了	13	2 (1)	2 (1)	1	6	2	1
平成 24 年度修了	16	2	0	0	11	1	2
平成 25 年度修了	9	2	0	0	6	0	1
平成 26 年度修了	11	0	2	0	7	0	1
平成 27 年度修了	11	2(1)	2(1)	0	6	2	0

※ () は、重複してカウントした数

※ 社会人院生であった学生が博士課程に進学後も仕事を継続した場合は、就職者には含まなかった

【専門看護師取得状況】（認定数は 2016 年 3 月現在）

	がん看護専門看護師		小児看護専門看護師	
	修了数	認定数	修了数	認定数
平成 21 年度修了	0	—	—	—
平成 22 年度修了	2	2 (100%)	—	—
平成 23 年度修了	1	0 (0%)	—	—
平成 24 年度修了	2	2 (100%)	6	4 (67%)
平成 25 年度修了	2	2 (100%)	1	0 (0%)
平成 26 年度修了	0	—	2	0(0%)
平成 27 年度修了	2	—	2	1(%)

※「修了者」は、専門看護師認定審査の受験資格を有する修了者の人数

※「認定数」は、専門看護師の認定審査に合格したものの人数

※ 専門看護師認定審査の有資格者のなかには、専門看護師の認定を希望しない者も含まれる

【博士課程】

	学位取得	教育機関・研究機関		看護師・助産師	保健師	その他
		大学教員	その他			
平成 24 年度修了	0	—	—	—	—	—
平成 25 年度修了	2	1	1	0	0	0
平成 26 年度修了	4	3	0	0	0	1
平成 27 年度修了	4	3	0	1	0	0

4-5. 大学院修了者の学位論文一覧（2015 年度修了者まで）

【修士課程】

平成 21 年度（2009 年度）

- ・ 鎌田美千代. 看護師の与薬業務における医療情報と医療行為の乖離の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 河村真人. 長野県佐久地域の 2008/09 シーズンにおける季節性インフルエンザ流行時での医療機関受診の検討. (丸山良子教授)
- ・ 佐々木康之輔. Evaluation of respiratory pattern on human heart rate variability (心拍変動における呼吸の評価). (丸山良子教授)
- ・ 庄司香織. エストロゲンと加齢が自律神経活動の調節に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 関智示. 褥瘡に出現する産褥早期の下肢浮腫の経時的変化と弾性ストッキングの効果に関する検討. (吉沢豊子教授)
- ・ 武石陽子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発. (吉沢豊子教授)
- ・ 武田晶子. 子どもの病気のイメージと「自分の病気について知ること」の意識および保護者の意識の実態とそれらの関連. (塩飽仁教授)
- ・ 松井憲子. 敗血症と全身性炎症反応症候群患者の自律神経活動の変化について. (丸山良子教授)

平成 22 年度（2010 年度）

- ・ 青木咲奈枝. がん患者の外來放射線治療による有害事象の苦痛度とクオリティ・オブ・ライフの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 伊藤加奈子. 中堅保健師の OJT と実践コミュニティに関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 桂田かおり. 死産・新生児死亡を経験した父親の「子どもの死の実感プロセス」. (佐藤喜根子教授)
- ・ 鎌倉美穂. 貯血式自己血採血をモデルとした循環血液量減少が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 坂村佐知. 妊娠先行型結婚夫婦の関係性が養育環境に及ぼす影響—早産児を出産した女性を対象にして—. (吉沢豊子教授)
- ・ 佐々木理衣. 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気がかりとソーシャル・サポートの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 千葉春香. 出生体重が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 永井瑞希. 女子長距離選手における月経異常が自律神経系・心血管系・運動パフォーマンスに及ぼす影響. (丸山良子教授)
- ・ 芳賀麻有. 睡眠時姿勢特性と自律神経活動および呼吸機能との関連性の検討. (丸山良子教授)
- ・ 平尾由美子. 在宅療養高齢者の足爪白癬の罹患状況、管理の実態、および QOL への影響に関する研究. (川原礼子教授)

平成 23 年度（2011 年度）

- ・ 荒屋敷純子. 東日本大震災発生から一週間の看護職の労働実態～性別・婚姻が災害時の労働に与えた影響～. (吉沢豊子教授)
- ・ 井上芙蓉子. がん診療に携わる看護師の緩和ケアに関する知識・困難感・実践の実態と関連要因—日本の 4 地域全体を対象とした多施設調査—. (宮下光令教授)

- ・岡野恵. 小児病棟に勤務するチャイルドライフスペシャリストの役割と機能に関する研究～子ども中心の医療を推進するスペシャリストとは～. (平野かよ子教授)
- ・菊池綾子. 第2子誕生後2か月経過した男性の家族に対する意識. (佐藤喜根子教授)
- ・熊谷賀代. 正常新生児の生後1か月までの体重増減量と完全母乳育児継続の関連要因の明確化. (吉沢豊子教授)
- ・小松恵. 高齢者の看取りにおいて、訪問看護師が「よい」あるいは「心残り」と感じた背景の研究. (川原礼子教授)
- ・佐々木久美子. 産業看護職におけるCSR(企業の社会的責任)の認識プロセス. (末永カツ子教授)
- ・品川優理. 乳癌患者に対する喫煙の影響－乳癌細胞株とタバコ煙抽出物を用いた検討－. (丸山良子教授)
- ・高橋奈津子. 介護老人保健施設に入所している高齢者の下肢浮腫に関する調査－加齢、日常生活における影響因子、および利尿薬との関連性について－. (川原礼子教授)
- ・竹内真帆. Changes in the lower limb of patients before and after Gynecologic surgery including LND: implication for early lymphedema assessment (婦人科リンパ節廓清術後の下肢の変化－続発性リンパ浮腫の早期発見に向けて－). (吉沢豊子教授)
- ・丹治史也. Personality and All-cause, Cause-specific Mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study (パーソナリティと全死因、死因別死亡リスクに関する前向きコホート研究). (南優子教授)
- ・成沢香織. 外来で分子標的治療を受けているがん患者の症状体験とQOLの関連. (佐藤富美子教授)
- ・藪田歩. 統合失調症をもつ患者の家族心理教育の効果. (齋藤秀光教授)

平成24年度(2012年度)

- ・五十嵐美幸. がん患者の死亡場所に関連する要因 死亡票情報を用いた分析と都道府県別医療社会的指標を用いた分析. (川原礼子教授)
- ・石川涼. 知的障害を伴わない発達障害をもつ子どもの発見から就学における関係者の役割および連携に関する実態調査. (塩飽仁教授)
- ・烏日古木拉. 出生体重が血圧および自律神経活動に及ぼす影響 モンゴル族の若年成人を対象にした検証. (丸山良子教授)
- ・菅野雄介. 看護師による看取りのケアの質の評価尺度の信頼性・妥当性と関連要因の探索. (宮下光令教授)
- ・菊池笑加. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態 ー東日本大震災から1年4か月後の調査ー. (佐藤喜根子教授)
- ・日下由利子. 看護師と患児および保護者が認識する病名と病状説明時における看護師の対応についての実態調査. (塩飽仁教授)
- ・佐山恭子. 入院した子どものきょうだいと母親が評価するきょうだい自身の人格的成長に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・関貴子. 喫煙と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究. (南優子教授)
- ・高田望. 看護師の「集中治療室における積極的治療から看取りの医療」への意思決定参画に関する基礎的研究. (平野かよ子教授)
- ・千葉みゆき. 化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応に関連する要因の検討. (佐藤富美子教授)

- ・ 名古屋祐子. 遺族と医療者への面接から得られた看取りの時期にある小児がんの子どもと家族に必要な要素. (塩飽仁教授)
- ・ 納谷さくら. がん患者のオピオイドに対する懸念と疼痛コントロールの関連. (佐藤富美子教授)
- ・ 真溪淳子. アクションラーニングによる地域看護管理者研修の意義. (末永カツ子教授)
- ・ 三谷綾子. 青年期以降の胆道閉鎖症患者の QOL とレジリエンスの特徴に関する調査研究. (塩飽仁教授)
- ・ 門間典子. 大学病院に勤務する中高年看護師の仕事継続要因の分析. (平野かよ子教授)
- ・ 谷地舘千恵. 看護師が認識する子どものターミナルケアについてのインタビュー調査. (塩飽仁教授)

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 菅野喜久子. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究. (宮下光令教授)
- ・ 木村智一. 児童養護施設の福祉職, 施設長, 看護師がとらえている児童養護施設の看護師の現状と役割の実態調査. (塩飽仁教授)
- ・ 日下裕子. リンパ浮腫発症の可能性に直面した時に感じる不本意さと不確かさ—婦人科がんサバイバーの経験から—. (吉沢豊子教授)
- ・ 下條祐也. 妻・母親役割を担う看護職の職業継続意思に影響する要因の検討—両立支援的組織風土に注目して—. (朝倉京子教授)
- ・ 長坂沙紀. 高機能広汎性発達障害当事者がセルフアドボカシー活動を行うまでの体験. (末永カツ子教授)
- ・ 包薩日娜. Effect of low birth weight on inflammation biomarkers and autonomic function in healthy young adults (若年健常者における出生体重が炎症性マーカーおよび自律神経機能に及ぼす影響). (丸山良子教授)
- ・ 本田涼. 第 2 子が NICU に入院した母親の第 1 子への思いと対応. (佐藤喜根子教授)
- ・ 三滝亜弥. 産業看護職が体験するリアリティショックと対処に関する研究. (末永カツ子教授)
- ・ 横田則子. 外来で化学療法を受けるがん患者の埋め込み型中心静脈ポート留置部位と生活の支障との関連. (佐藤富美子教授)

平成 26 年度 (2014 年度)

- ・ 岩淵正博. 終末期医療に関する意思決定者の実態と受ける医療や Quality of Life への影響. (宮下光令教授)
- ・ 熊谷清美. メキシコにおける妊婦と子育て中の母親の愛着—接触行動との関連—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 坂田あゆみ. 産後 4 カ月の母親のソーシャルサポートに対する認識—被災地域の子育て環境から—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 佐藤遥. 側臥位と自律神経活動および循環動態の性差について. (丸山良子教授)
- ・ 鈴木千鶴. 食物アレルギーの子どもをもつ母親の困難感と対処行動. (塩飽仁教授)
- ・ 高橋恵美子. 東日本大震災が不妊に悩む女性に及ぼした影響—ART を受けている女性の現状—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 長橋美栄子. 看護師免許を有する養護教諭と有しない養護教諭における業務上の困難感に関する研究. (齋藤秀光教授)

- ・ 三浦恵美. 看護師長が認識する **successful** な部署運営に関する研究. (朝倉京子教授)
- ・ 柳本千景. 外来化学療法を受けているがん患者の倦怠感マネジメントバリアに影響する要因の検討.
(佐藤富美子教授)
- ・ 吉田明莉. 無侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT) 受検者が妊娠中に抱いた思い. (吉沢豊子教授)
- ・ 横山千恵. 特別支援学校に勤務する看護師が役割を遂行するために必要な要素. (塩飽仁教授)

平成 27 年度 (2015 年度)

- ・ 菊池尚子. 切迫早産妊婦の安静治療による母児アウトカムへの影響. (吉沢豊子教授)
- ・ 杉山育子. 原発性悪性脳腫瘍患者における終末期ケアの質の評価：ホスピス・緩和ケア病棟での多施設遺族調査 (宮下光令教授)
- ・ 杉山祥子. 看護師の自律的な臨床判断が磨かれるありよう (朝倉京子教授)
- ・ 青砥恵美. 東北地方における看護師が実施する認知行動療法の実態に関する研究 (斎藤秀光教授)
- ・ 入江亘. 小児がんの子どもが **Posttraumatic Growth** に至るプロセス (塩飽仁教授)
- ・ 和田彩. 就労妊婦の特性と妊娠アウトカムとの関連—内的特性に着目して— (吉沢豊子教授)
- ・ 佐藤恵. 帝王切開術で出産した女性の出産体験のとらえ方とそれに影響する要因—経膈分娩との比較
(佐藤喜根子教授)
- ・ 重野朋子. 宮城県内のがん診療連携拠点病院におけるがん疼痛に関する多施設調査—施設間差と疼痛緩和が不十分な患者への対応の検討— (宮下光令教授)
- ・ 菅原明子. 健康問題を持つ子供に対して看護師が実践している心理的ケアのプロセス (塩飽仁教授)
- ・ 瀧澤洋子. **Alcohol intake and breast cancer risk according to menopausal and hormone receptor status in Japanese women**(日本人女性における飲酒と閉経状況・ホルモン受容体別乳がんリスクとの関連)
(南優子教授)
- ・ 根本裕美子. 東京電力福島第一原子力発電所事故における安定ヨウ素剤の国, 県, 市町村の対応の実際と今後の備え (末永カツ子教授)

【博士課程】

平成 25 年度 (2013 年度)

- ・ 有永洋子. アロマセラピーと簡易エクササイズを用いたセルフケアプログラムによる乳がん治療関連リンパ浮腫管理に関する研究 (佐藤富美子教授)
- ・ 清水恵. 受療行動調査におけるがん患者の療養生活の質の評価のための項目の適切性に関する研究
(宮下光令教授)

平成 26 年度 (2014 年度)

- ・ 阿部亜希子. 災害をきっかけとした保健師の創発的活動に関する研究—東日本大震災時の保健師活動の分析を通して—. (佐藤喜根子教授)
- ・ 佐々木康之輔. 健康成人における左右側臥位時の心臓自律神経活動および循環動態の変化に関する基礎的検討. (丸山良子教授)

- ・ 佐藤眞理. エスノグラフィの分析を通して見えてくる被災した町の保健師の経験. (吉沢豊子教授)
- ・ 高橋葉子. 東日本大震災後における被災地看護師のメンタルヘルス―職場の被災による影響―. (齋藤秀光教授)

平成 27 年度 (2015 年度)

- ・ 井上由紀子. 病気や障害をもつ子供と養育者の意思尊重支援の現状と支援ツールの作成および支援ツールを活用した看護実践の有用性とその検証 (塩飽仁教授)
- ・ 青山真帆. がん患者遺族の悲嘆・抑うつ・睡眠状態・飲酒行動の実態と関連要因 (宮下光令教授)
- ・ 佐藤大介. 前立腺がん患者の術後合併症の増悪予防と QOL 向上を目的とした遠隔看護システムの効果 (佐藤富美子教授)
- ・ 堀口雅美. 健康若年成人を対象とした食行動とストレス対処能力に関する研究 (丸山良子教授)

4-6. 業績数の推移 (2015 年 12 月現在)

【業績数の推移】

	原著論文・総説 (査読あり)		原著論文・総説 (査読なし)、 紀要、解説	著書	国際学会 発表	国内学会 発表
	英文論文	和文論文				
平成 20 年 (2008 年)	4	11	20	9	3	44
平成 21 年 (2009 年)	7	6	13	6	8	56
平成 22 年 (2010 年)	20	11	23	6	17	114
平成 23 年 (2011 年)	17	14	24	10	10	84
平成 24 年 (2012 年)	30	22	17	9	22	89
平成 25 年 (2013 年)	24	25	27	9	13	115
平成 26 年 (2014 年)	29	16	30	16	19	112
平成 27 年 (2015 年)	39	28	30	12	23	131
合計	170	133	184	77	115	745

※ 大学院が設置された 2008 年以降のもの

※ 教員・学生が保健学専攻に所属している期間中に発表された業績のみを数えた

※ 査読のない原著論文は「原著論文・総説 (査読なし)、紀要、解説」に含めた

※ 重複カウントあり

【外部資金獲得の推移】

	新規研究費		継続研究費		その他 外部資金
	主任研究	分担研究	主任研究	分担研究	
平成 20 年度 (2008 年度)	11	6	4	2	0
平成 21 年度 (2009 年度)	8	9	10	6	0
平成 22 年度 (2010 年度)	11	7	11	14	3
平成 23 年度 (2011 年度)	14	5	14	13	1
平成 24 年度 (2012 年度)	20	13	19	11	3
平成 25 年度 (2013 年度)	19	23	22	18	0
平成 26 年度 (2014 年度)	9	5	24	30	0
平成 27 年度 (2015 年度)	14	1	13	18	3
合計	106	69	117	112	10

※ 大学院が設置された 2008 年 4 月以降のもの

※ 継続研究費は延数

5. 研究業績（2015 年 1 月～2015 年 12 月）

5-1. 原著論文・総説（査読あり）

【看護アセスメント学分野】

1. Nakamura Y, Sato K, Yamamoto H, Matsumura K, Matsumoto I, Nomura T, Miyasaka T, Ishii K, Kanno E, Tachi M, Yamasaki S, Saijo S, Iwakura Y, Kawakami K. Dectin-2 deficiency promotes Th2 response and mucin production in the lungs after pulmonary infection with *Cryptococcus neoformans*. *Infect Immun*. 2015;83(2):671-681.
2. Sato K, Yamamoto H, Nomura T, Matsumoto I, Miyasaka T, Zong T, Kanno E, Uno K, Ishii K, Kawakami K. *Cryptococcus neoformans* infection in mice lacking type I interferon signaling leads to increased fungal clearance and IL-4-dependent mucin production in the lungs. *PLOS ONE*. 2015;10(9):e0138291.
3. Tanno H, Kawakami K, Ritsu M, Kanno E, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Contribution of invariant natural killer T cells to skin wound healing. *Am J Pathol*. 2015;185(12):3248-57.
4. 菅野恵美. 創傷治癒における微生物負荷の意義. 基礎科学をもとにした Co-Medical 研究会雑誌. 2015;3(1):16-21.

【看護教育・管理学分野】

5. Asakura T, Gee G. C, Asakura K. Assessing a culturally appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese Brazilians. *International Journal of Cultural Studies*, 2015; DOI:10.1080/17542863.2015.1074259
6. 佐藤みほ, 朝倉京子, 渡邊生恵, 下條祐也. 日本語版職業コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌. 2015;35:63-71,...

【老年・在宅看護学分野】

7. 西崎未和, 尾崎章子, 其田貴美枝, 畑中晃子, 御任充和子, 山本由香, 新井由希子:看護学基礎教育における退院支援実習の学習効果, 日本在宅看護学会誌. 2015;3(2):1-10.

【公衆衛生看護学分野】

8. Kawasaki C, Omori J, Ono W, Konishi E, Asahara K. Public Health Nurses' Experiences in Caring for the Fukushima Community in the Wake of the 2011 Fukushima Nuclear Accident. *Public Health Nursing* [Internet]. 2015 Aug 28. doi: 10.1111/phn.12227.
9. Nagata S, Ogawa K, Taguchi A, Naruse T, Murashima S, Magilvy JK. Promoting the use of visiting nurse services for patients discharged from hospital: Evaluation of a Japanese municipality's model project. *Home Health Care Management & Practice*. 2015;27(2):47-53.
10. Sakai M, Yanase H, Taguchi A, Naruse T, Nagata S. Community residents' confidence in spending their end-of-life at home and the related factors: a cross sectional study. *Japanese Journal of Health and Human Ecology*. 2015;81(4):122-133.
11. 田口敦子, 永田智子, 成瀬昂, 栗原雄樹, 山口拓洋, 村嶋幸代. 訪問看護必要性アセスメントシート的一般化可能性および活用可能性の検討. 日本医療・病院管理学会誌. 2015;52(2):5-15.
12. 柳瀬裕貴, 成瀬昂, 田口敦子, 永田智子. 終末期在宅療養の実現可能性に関する地方中核都市と郡部在住の住民の認識とその関連要因. 日本地域看護学会誌. 2015;18(2,3):23-32.
13. Nagata S, Ogawa K, Taguchi A, Naruse T, Murashima S, Magilvy JK. Promoting the use of visiting nurse services for patients discharged from hospital: Evaluation of a Japanese municipality's model project. *Home Health Care Management & Practice*. 2015;27(2):47-53.
14. Sakai M, Yanase H, Taguchi A, Naruse T, Nagata S. Community residents' confidence in spending their end-of-life at home and the related factors: a cross sectional study. *Japanese Journal of Health and Human Ecology*. 2015;81(4):122-133.

15. 田口敦子, 永田智子, 成瀬昂, 栗原雄樹, 山口拓洋, 村嶋幸代. 訪問看護必要性アセスメントシートの一般化可能性および活用可能性の検討. 日本医療・病院管理学会誌. 2015;52(2):5-15.
16. 柳瀬裕貴, 成瀬昂, 田口敦子, 永田智子. 終末期在宅療養の実現可能性に関する地方中核都市と郡部在住の住民の認識とその関連要因. 日本地域看護学会誌. 2015;18(2,3):23-32.

【地域保健学分野】

17. Tanji F, Kakizaki M, Sugawara Y, Watanabe I, Nakaya N, Minami Y, Fukao A, Tsuji I. Personality and suicide risk: the impact of economic crisis in Japan. Psychol Med, 2015;45:559-73.
18. Minami Y, Kawai M, Fujiya T, Suzuki M, Noguchi T, Yamanami H, Kakugawa Y, Nishino Y. Family history, body mass index and survival in Japanese patients with stomach cancer: a prospective study. Int J Cancer, 2015;136:411-24.
19. Minami Y, Hosokawa T, Nakaya N, Sugawara Y, Nishino Y, Kakugawa Y, Fukao A, Tsuji I. Personality and breast cancer risk and survival: the Miyagi Cohort Study. Breast Cancer Res Treat, 2015;150:675-84.
20. Kakugawa Y, Kawai M, Nishino Y, Fukamachi K, Ishida T, Ohuchi N, Minami Y. Smoking and survival after breast cancer diagnosis in Japanese women: A prospective cohort study. Cancer Sci, 2015;106:1066-74.

【成人看護学分野】

21. Yoshii H, Kikuchi F, Kang Lin, Li Jingge, Akazawa K, Saito H. Mental Health Care for Cancer Patients, Their Families and Nurses in China: A Review British Journal of Education, Society & Behavioural Science. 2016;13(1): 1-14.

【がん看護学分野】

22. 有永洋子, 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 柏倉栄子. 乳がん治療関連リンパ浮腫患者へのセルフケアプログラムによる患側上肢体積減少効果. 日本看護科学学会誌. 2015;35:1-9.
23. 有永洋子, 佐藤富美子, 佐藤菜保子. 乳がん治療関連リンパ浮腫セルフケアプログラムによる患側上肢体積減少と患者特性との関連. 日本がん看護学会誌. 2015;29, 67-72. doi:10.11477/mf.7007200623
24. 佐藤菜保子, 片寄友, 元井冬彦, 中川圭, 坂田直昭, 川口桂, 佐藤富美子, 海野倫明. 膵切除術後3ヶ月の患者 QOL 検討からみた症状介入の方略, 膵臓. 2015;30:654-662.

【緩和ケア看護学分野】

25. Akechi T, Momino K, Miyashita M, Sakamoto N, Yamashita H, Toyama T. Anxiety in disease free breast cancer patients might be alleviated by provision of psychological support, not of information. Jpn J Clin Oncol. 2015; 45(10):929-33
26. Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden. J Clin Oncol. 2015 Feb 1;33(4):357-63.
27. Kizawa Y, Morita T, Miyashita M, Shinjo T, Yamagishi A, Suzuki S, Kinoshita H, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Improvements in physicians' knowledge, difficulties, and self-reported practice after a regional palliative care program. J Pain Symptom Manage. 2015 Aug;50(2):232-40.
28. Kuroda Y, Iwamitsu Y, Miyashita M, Hirai K, Kato D, Yamashita H, Kawakami S, Nakano K, Nakagawa K. Views of life and death with regard to end-of-life care preferences among cancer patients receiving cancer treatment at a Japanese university hospital. Palliat Support Care. 2015; 13(4): 969-79.
29. Mikoshiba N, Yamamoto-Mitani N, Sato K, Asaoka Y, Ohki T, Ohata M, Miyashita M. Validation of the Japanese Version of HFS-14, a Disease-Specific Quality of Life Scale for Patients Suffering from Hand-Foot Syndrome. Support Care Cancer. 2015 Sep;23(9):2739-45.

30. Miyashita M, Kawakami S, Kato D, Yamashita H, Igaki H, Nakano K, Kuroda Y, Nakagawa K. The importance of good death components among cancer patients, the general population, oncologists and oncology nurses in Japan: Patients prefer "fighting against cancer." *Support Care Cancer*. 2015 Jan;23(1):103-10.
31. Miyashita M, Morita T, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. A nationwide survey of quality of end-of-life cancer care in designated cancer centers, inpatient palliative care units and home hospices in Japan: the J-HOPE study. *J Pain Symptom Manage*. 2015 Jul;50(1):38-47.e3
32. Miyashita M, Wada M, Morita T, Ishida M, Onishi H, Sasaki Y, Narabayashi M, Wada T, Matsubara M, Takigawa C, Shinjo T, Suga A, Inoue S, Ikenaga M, Kohara H, Tsuneto S, Shima Y. The independent validation of Japanese version of EORTC QLQ-C15-PAL for advanced cancer patients. *J Pain Symptom Manage*. 2015 May;49(5):953-9.
33. Oyama Y, Fukahori H, Miyashita M, Narama M, Kono A, Atogami F, Kashiwagi M, Okaya K, Takamizawa E, Yoshizawa T. Cross-sectional online survey of research productivity in young Japanese nursing faculty. *Jpn J Nurs Sci*. 2015 Jul;12(3):198-207.
34. Sekine R, Ogata M, Uchiyama I, Miyakoshi K, Uruma M, Miyashita M, Morita T. Changes in and associations among functional status and perceived-quality of life of metastatic/locally advanced cancer patients receiving rehabilitation for general disability. *Am J Hosp Palliat Med*. 2015 Nov;32(7):695-702.
35. Shinjo T, Morita T, Hirai K, Miyashita M, Shimizu M, Tsuneto S, Shima Y. Why people accept opioids: role of general attitudes toward drugs, experience as a bereaved family, information from medical professionals, and personal beliefs regarding good death. *J Pain Symptom Manage*. 2015 Jan;49(1):45-54.
36. Tanimukai H, Adachi H, Hirai K, Matsui T, Shimizu M, Miyashita M, Tsuneto S, Shima Y. Association between depressive symptoms and changes in sleep condition in the grieving process. *Support Care Cancer*. 2015 Jul;23(7):1925-31.
37. Umezawa S, Fujisawa D, Fujimori M, Ogawa A, Matsushima E, Miyashita M. Prevalence, associated factors and source of support concerning supportive care needs among Japanese cancer survivors. *Psychooncology*. 2015 Jun;24(6):635-42.
38. Yamagishi A, Morita T, Kawagoe S, Shimizu M, Ozawa T, An E, Kobayakawa M, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Length of home hospice care, perceived timing of referrals, quality of care, and quality of life in terminally ill cancer patients who died at home. *Support Care Cancer*. 2015 Feb;23(2):491-9.
39. Yamamoto R, Kizawa Y, Nakazawa Y, Ohde S, Tetsumi S, Miyashita M. Outcome Evaluation of the Palliative Care Emphasis Program on Symptom Management and Assessment for Continuous Medical Education: Nationwide Physician Education Project for Primary Palliative Care in Japan. *J Palliat Med*. 2015 Jan;18(1):45-9.
40. Yoshida S, Miyashita M, Hirai K, Morita T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. Strategies for development of palliative care from the perspectives of general population and healthcare professionals: A Japanese Outreach Palliative Care Trial of Integrated Regional Model study. *Am J Hosp Palliat Med*. 2015 Sep;32(6):604-10.
41. 大園康文, 石井容子, 宮下光令. 訪問看護師が認識する終末期がん患者の在宅療養継続の障害. *日がん看会誌*. 2015; 29(1): 44-53.
42. 角甲純, 關本翌子, 小川朝生, 宮下光令. 終末期がん患者の呼吸困難に対する送風の有効性についてのケースシリーズ研究. *Palliat Care Res*. 2015 Mar;10(1):147-52

43. 菅野雄介, 佐藤一樹, 早川陽子, 瀧田好恵, 我妻崇史, 千葉友子, 本田和子, 柴田弘子, 山内かず子, 高橋信, 井上彰, 宮下光令. 一般病棟で看取りのケアのクリニカル・パス Liverpool Care Pathway 日本語版を導入するための課題: 大学病院での使用経験から. *Palliat Care Res.* 2015 Mar;10(1):318-23
 44. 岸野恵, 木澤義之, 佐藤悠子, 宮下光令, 森田達也, 細川豊史. 大学病院入院中のがん患者の突出痛の頻度に関する予備調査. *Palliat Care Res.* 2015 Jul;10(3):155-60.
 45. 佐藤一樹, 橋本孝太郎, 内海純子, 出水明, 藤本肇, 森井正智, 宮下光令, 永沢譲, 鈴木雅夫. 在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者の在宅診療中止の関連要因. *Palliat Care Res.* 2015 Apr;10(2):116-23.
 46. 佐藤悠子, 宮下光令, 藤森研司, 中谷純, 藤本容子, 栗原誠, 佐藤一樹, 石岡千加史. 東北大学病院における5大がん入院患者の終末期医療の実態: DPC データを用いた方法論の確立. *Palliat Care Res.* 2015 Aug;10(3):177-85.
 47. 清水恵, 佐藤一樹, 加藤雅志, 藤澤大介, 森田達也, 宮下光令. 受療行動調査における療養生活の質の評価のための項目のがん患者における内容的妥当性と結果の解釈可能性に関する基礎的検討. *Palliat Care Res.* 2015; 10(4):223-7.
 48. 橋本孝太郎, 佐藤一樹, 内海純子, 出水明, 藤本肇, 森井正智, 佐々木琴美, 宮下光令, 鈴木雅夫. 在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者の実態調査. *Palliat Care Res.* 2015 Mar;10(1):153-61
 49. 山岸暁美, 森田達也, 川越正平, 清水恵, 小澤竹俊, 安恵美, 小早川誠, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 終末期がん患者に在宅療養移行をすすめるときの望ましいコミュニケーション: 多施設遺族研究. *がんと化学療法.* 2015 Mar;42(3):327-33.
 50. 山脇道晴, 森田達也, 清原恵美, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. ご遺体へのケアを看護師が家族と一緒にすることについての家族の体験と評価. *がん看護.* 2015; 20(6):670-5.
 51. 山脇道晴, 森田達也, 清原恵美, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. ホスピス・緩和ケア病棟で行われているご遺体へのケアに関する遺族の体験と評価 自由記述における内容分析. *Palliat Care Res.* *Palliat Care Res.* 2015; 10(3):209-16.
 52. 山脇道晴, 森田達也, 清原恵美, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. ホスピス・緩和ケア病棟におけるご遺体へのケアに関する遺族の評価と評価に関する要因. *Palliat Care Res.* 2015 Apr;10(2):101-7.
- 【小児看護学分野】
53. 木村智一, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 井上由紀子, 名古屋祐子, 横山千恵, 鈴木千鶴: 児童養護施設の福祉職と施設長からみた児童養護施設で看護師と福祉職が一緒に働く利点. *北日本看護学会誌* 17(2):15-22, 2015
- 【精神看護学分野】
54. Mazumder, Atiqul H; Alam, M d T; Yoshii, Hatsumi; Kortessluoma, Riitta-Liisa; Mullick, Mohammad S I; Chowdhury, M d W A. Establishment of Blastocystis hominis in-vitro Culture Using Fecal Samples from Infants in Slum Area of Mirpur, Dhaka, Bangladesh. . *Acta Medica International.* 2015 Jan-Jun; 2(1): 40-47.
 55. Yoshii H . Workplace Social Distance toward Psychiatric Patients Among Employers. *British Journal of Education, Society & Behavioural Science* 2015, 8(1): 63-69.
 56. Atiqu H. Mazumder, T. Alam, Hatsumi Yoshii, Riitta-Liisa Kortessluoma, Mohammad S. I. Mullick, W. A. Chowdhury. Positive and Negative Symptoms in Patients of Schizophrenia: A Cross Sectional Study. *Acta Medica International* 2015, 2(1): 48-52.
 57. Yoshii H, Mandai N, Saito H, Akazawa K. Reliability and Validity of the Workplace Social Distance Scale. 2015, 7 (3): 46-51.
 58. Yoshii H. Self-stigma of schizophrenia patients with work experiences and reasons not to disclose their illness. *British Journal of Education, Society & Behavioural Science.* 2015, 5(2): 199-207.

【周産期看護学分野】

59. Masahiro Tsuchiya, Jun Aida, Yoshihiro Hagiwara, Yumi Sugawara, Yasutake Tomata, Mari Sato, Takashi Watanabe, Hiroaki Tomita, Eiji Nemoto, Makoto Watanabe, Ken Osaka, Ichiro Tsuji. Panel study of periodontal disease and insomnia among Great East Japan Earthquake victims. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2015; 237(2):1-8. Total Pages: 8.
60. Mari SATO, Fumi ATOGAMI, Yasuka NAKAMURA, Toyoko YOSHIZAWA. Experiences of Public Health Nurses in Remote Communities during the Great East Japan Earthquake. Health Emergency and Disaster Nursing. 2015; 2(1): 1-10. Online ISSN 2188-2061. Total Pages: 10
61. 佐藤喜根子: 周産期医療の現状と東日本大震災後の影響—将来に向けた産科医・助産師連携の取り組み—、日本医史学雑誌、一般社団法人 日本医史学会. 2015. 61(3). 323-325

【ウィメンズヘルス看護学分野】

62. Nakamura Y, Takeishi Y, Ito N, Ito M, Atogami F, Yoshizawa T. Comfort with motherhood in late pregnancy facilitates maternal role attainment in early postpartum. Tohoku J Exp Med. 2015; 235(1):53-9.
63. Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Kusaka Y, Yoshizawa T. Committed to working for the community: experiences of a public health nurse in a remote area during the Great East Japan Earthquake. Health Care Women Int. 2015; 36(11):1224-38.
64. 小川彩, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子, 武石陽子. 就労妊婦における妊娠期の快適性の特徴. 母性衛生. 2015; 56(2):292-300.
65. 日下裕子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 婦人科がん手術後患者がリンパ浮腫予防教室後に抱く思い リンパ浮腫発症の可能性に直面して. 日本がん看護学会誌. 2015; 29(1):5-13.
66. 深堀浩樹, 宮下光令, 大山裕美子, 跡上富美, 岡谷恵子, 柏木聖代, 河野あゆみ, 高見沢恵美子, 奈良間美保, 吉沢豊予子. 若手看護学研究者の研究活動の阻害要因と日本看護科学学会に求める支援の関連要因. 日本看護科学会誌. 2015; 35:203-14.
67. 渡邊生恵, 中村康香. 宮城県における出産後女性の健診・検診受診の実態に関する調査「子どもの健康と環境に関する全国調査(Japan Environment & Children's Study)」宮城ユニットセンターによる調査結果. 宮城県公衆衛生学会会誌. 2015(47):9.

5-2. 原著論文・総説(査読なし)、紀要、解説

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美. 創傷における細菌コントロールの意義. 東北大学保健学科紀要. 2015; 24(1):15-8.
2. 丸山良子, 菅野恵美, 包薩日娜, 佐藤遥, 佐々木康之輔. 食生活からみた中国少数民族の出生体重と高血圧発症の関連. 食生活科学・文化・環境に関する研究助成研究紀要. 2015; 28(1):131-40

【老年・在宅看護学分野】

3. 川原礼子, 齋藤美華, 坂川奈央, 東海林志保: 高齢者の「予想される死」における看護職による呼吸停止確認の現状と認識—全国老人保健・福祉施設の看護職への調査から—, 東北大学医学部保健学科紀要. 2015; 24(2):65-75.
4. 川原礼子, 佐々木明子, 齋藤美華, 坂川奈央: 看護における end-of-life care 教育システムの再構築への提言 スウェーデンにおける予想される死への看護職による死亡確認の現状から. 看護研究. 2015; 48(6):596-604 大森純子. 住民と共創する健康増進—地域の底力育むために—. 東北医学雑誌. 2014; 126(2):147-50.
5. 尾崎章子: 高齢者の睡眠疫学. 睡眠医療. 2015; 9(3):325-330.

【公衆衛生看護学分野】

6. 大森純子. 卒業研究における概念分析の適用可能性と教育的効果. 東北大学医学部保健学科紀要. 2015; 24(1):1-6.

7. 大森結実, 田口敦子, 加藤政子, 佐々木夫起子, 高橋正美, 大森純子. 慢性疾患患者の退院後の療養生活からみた病棟看護師による退院支援内容の検討 ―退院支援ハイリスク者事例に関する看護記録とインタビューから―. 東北大学保健学科紀要. 2015;24(1):77-88.
8. 末永カツ子, 高橋香子, 栗本鮎美, 田口敦子, 大森純子. 東北大学大学院医学系研究科保健師養成コースの解説について(第2報) ―東北大学保健師養成コースで養成する人材像―. 東北大学保健学科紀要. 2015;24(1):7-13.
9. 田口敦子, 奥田春花, 吉田和子, 五十嵐ひとみ, 佐藤裕子, 佐々木夫起子, 山内かず子, 永田智子. 大学病院における退院支援スクリーニング指標の基準関連妥当性の検討. 東北大学保健学科紀要. 2015;24(1):19-27.
10. 吉田礼維子, 針金佳代子, 若山好美, 小澤涼子. 保健師の専門性の学びを深める選択実習の成果 ―健康なまちビジョン、計画立案を通して―. 天使大学紀要. 2015;15(2):1-13

【がん看護学分野】

11. 佐藤大介, 佐藤富美子. がん治療遠隔看護システムによる患者在宅情報管理・教育の可能性. 月刊新医療. 2015;42(1):190-192.
12. 佐藤富美子, 横田則子. 抗がん剤の副作用と支持療法―より適切な抗がん剤の安全使用をめざして. 日本臨床. 2015;73(2):683-686.

【緩和ケア看護学分野】

13. 宮下光令. 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE2 研究(多施設遺族調査からの学び)第1回 遺族による緩和ケアの質評価/在宅療養に移行した時期とコミュニケーション. がん看護. 2015;20(4):468-72.
14. 宮下光令. 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE2 研究(多施設遺族調査からの学び)第2回 医療用麻薬をめぐる. がん看護. 2015;20(5):548-52.
15. 宮下光令. 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE2 研究(多施設遺族調査からの学び)第3回 家族に対するケア. がん看護. 2015;20(6):649-54.
16. 宮下光令. 遺族の声を臨床に生かす～J-HOPE2 研究(多施設遺族調査からの学び)第4回 看取り前後のケア. がん看護. 2015;20(7):730-5.
17. 宮下光令. 緩和ケアの考え方と非がん疾患の緩和ケアの現状. 看護技術. 2015;61(7):20-27.
18. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス第4回 がん疼痛のセルフケアを高める看護師による患者教育の効果 ドイツで行われた無作為化比較試験より. オンコロジーナース. 2015;8(3):50-1.
19. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス第5回 看護師を中心にした精神科医、プライマリケア医の協同によるがん患者のうつ病のマネジメントプログラムの多施設臨床試験:SMaRT Oncology-2 試験. オンコロジーナース. 2015;8(4):108-9.
20. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス第6回 ソラフェニブによる手足症候群の尿素クリームによる予防効果:無作為化比較試験. オンコロジーナース. 2015;8(5):52-3.
21. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第7回 せん妄に対する複合的・非薬物療法の介入効果のメタアナリシス. オンコロジーナース. 2015;9(1):96-8.
22. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第8回 看護師による電話カウンセリングによる早期からの緩和ケアが進行がん患者の生存率を向上させるかもしれない. オンコロジーナース. 2015;9(2):100-1.
23. 宮下光令. わが国の緩和ケアの現状. 日本透析医会雑誌. 2015;30(2):344-5.
24. 宮下光令. わが国の緩和ケアの現状: がん領域の進歩、非がん領域の課題. 宮城県腎臓協会会報. 2015;26:22-8.

【小児看護学分野】

25. 塩飽 仁. 思春期患者のメンタルヘルスの問題と看護. 特集「小児から成人へ AYA 世代のがん看護 思春期に焦点をあてて」. 小児看護 38(11):1400-1406, 2015.

【周産期看護学分野】

26. 佐藤喜根子, 坂田あゆみ, 佐藤恵, 及川真紀, 樋渡麻衣, 西郡秀和, 齋藤秀光. 妊婦に対する温泉浴の効果の検証, 研究年報 36, 日本健康開発財団 2015.7-16.

27. 佐藤喜根子:妊娠した女性の心理状況、(「薬局」特集「妊婦の薬物治療管理ーリスクと不安を最小にするための基礎と実践ー)薬局、南山堂、2015. 66(1).119-123.
【ウィメンズヘルス看護学分野】
28. Nakamura Y, Yoshizawa T, Atogami F, Ito N. Is there a meaningful level of activity restriction for hospitalized pregnant women?: A single-case experimental investigation, Bulletin of School of Health Sciences Tohoku University. 2015;24(1):29-37.
29. 跡上富美. 【査読を考える-査読ガイドラインの構築に向けて】 査読を受けた経験をいま査読者としてどうかすか 論文査読に必要とされるものは何か. 看護研究. 2015;48(7):709-13.
30. 佐藤眞理, 吉沢豊予子. 【大学院で学ぶ意味-新たな看護を創るために】 博士修了の立場から 東日本大震災がきっかけとなった研究活動. 看護研究. 2015;48(4):318-21.

5-3. 著書

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美, 館正弘. 創傷治癒と湿潤環境理論. In: 貝谷敏子(編). WOC Nursing. 東京: 医学出版; 2015. p. 7-14.
2. 菅野恵美, 館正弘. 総論-湿潤環境療法と感染症, クリティカルコロナイゼーションとバイオフィルム. In: 館正弘(編). WOC Nursing. 東京: 医学出版, 2015. p. 7-14.

【老年・在宅看護学分野】

3. 川原礼子, 齋藤美華 編著:新しい時代の看護実践を支える 老年看護学 ー国家試験対応に基づく編集からー.東京:青踏社;2015.

【公衆衛生看護学分野】

4. 大森純子. 第2章公衆衛生の活動対象, 大森純子, 有本梓, 蔭山正子, 小野若菜子, 宮本有紀, 相田潤, 梅田麻希, 鈴木まき(分担執筆). 第7章 地域保健. In: 神馬征峰, 大森純子, 宮本有紀(編集代表). 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度②. 公衆衛生. 東京: 医学書院; 2015. p. 43-60, 147-275.
5. 田口敦子, 大塚剛, 小澤幸子, 鎌石佐織, 瀬戸裕司, 東森佳子, 細野純, 前田岳史, 柴口里則, 唐木美代子, 下出和子(編者). ケアマネジャーのための医療職との連携ハンドブック. 東京: 一般社団法人 日本介護支援専門員協会; 2015. 209p.

【がん看護学分野】

6. 有永洋子・佐藤富美子(訳). 第19章エビデンス統合とエビデンスに基づく実践のための方略. In: Grove SK, Burns N, Gray JR 著,黒田裕子他監訳, バーンズ& グローブ看護研究入門第7版. ELSEVIER; 2015. p422-454.
7. 有永洋子・佐藤富美子・佐藤菜保子訳, 第28章研究計画書の作成. In: Grove SK, Burns N, Gray JR 著,黒田裕子他監訳, バーンズ& グローブ看護研究入門第7版. ELSEVIER; 2015. p568-590.
8. 佐藤富美子,1. がん手術後合併症の観察と看護. In 神田清子・二渡玉江(編). 看護実践のための根拠が分かる 成人看護技術ーがん・ターミナルケア.メジカルフレンド社;2015.p.112-121.
9. 佐藤富美子, 3. 乳がん・婦人科がんの周術期ケア. In 神田清子・二渡玉江(編). 看護実践のための根拠が分かる 成人看護技術ーがん・ターミナルケア.メジカルフレンド社;2015. 130-139..

【緩和ケア看護学分野】(2009年10月以降)

10. 宮下光令, 今井涼生. データでみる日本の緩和ケアの現状. In: 志真泰夫, 恒藤暁, 森田達也, 宮下光令(編). ホスピス緩和ケア白書 2015. 東京: 青海社; 2015. p. 72-95.

【小児看護学分野】

11. 塩飽 仁, 井上由紀子. 第18章 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In: 奈良間美保, 丸 光恵(編). 系統看護学講座 専門分野II 小児看護学2. 東京: 医学書院; 2015.p481-493, p506-514.

【周産期看護学分野】

12. 佐藤喜根子.災害時の地域母子保健活動.我部山キヨ子(編)助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健. 医学書院 ;2015.p.204-213

5-4. 国際学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Bao S, Kanno E, Tanno H, Maruyama R. Is There Sex Difference Between Hypertension Risk and Low Birth Weight in Healthy Young Japanese Adults?. APS Conference: Cardiovascular, Renal and metabolic Diseases: Physiology and Gender; 2015 November 17-20; Anapolis, USA.
2. Bao S, Sato H, Sasaki K, Kanno E, Maruyama R. Mongolian Low Birth Weight Young Adults Have Higher Risk of Hypertension Compared with Han Chinese and Japanese Counterparts. Experimental Biology; 2015 March 28- April 1; Boston, USA.
3. Kamakura M, Kanno E, Maruyama R. A case of vasovagal reaction evaluated by heart rate variability analysis during autologous blood donation. American thoracic society; 2015 May 15-20; Denver, USA.

【看護教育・管理学分野】

4. Satoh M, Watanabe I, Asakura K. Psychosocial factors related to intention to stay as a nurse in urban and rural area in Japan. 143rd APHA Annual Meeting; 2015 Nov 3; Chicago.

【公衆衛生看護学分野】

5. Kageyama M, Nagata S, Shimazu T, Taguchi A, Magilvy K. Analogy patterns of public health nurses in department transfers. The 6th international conference on community health nursing research (ICCHNR); 2015 Aug 19-21; Korea.
6. Kawasaki C, Yabuki A, Konishi E, Ono W, Kikuchi T, Orita M, Omori J, Arakida M, Kobayashi M, Mitsumori Y, Asahara K. Developing radiation teaching materials for Public Health Nurses of Fukushima, Japan. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars; 2015 Feb 5-6; Taipei.
7. Konishi E, Yabuki A, Kikuchi T, Mitsumori Y, Omori J, Arakida M, Orita M, Kwasaki C, Ono W, Kobayashi M, Asahara K. Multidisciplinary approach to promote a practical radiation culture in Fukushima, Japan. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars; 2015 Feb 5-6; Taipei.
8. Taguchi A, Murayama H, Miyao C, Yamaguchi T. A new health education program on dietary variety for the community elderly: implementation by health promotion volunteers. 143rd American Public Health Association Annual Meeting & Exposition; 2015 Oct 31-Nov 4; Chicago.

【がん看護学分野】

9. Arinaga Y, Sato F, Piller N, Kakamu T, Hirakawa H, Sasaki R, Ishida T, Sato-Tadano A, Kikuchi K, Ohta T, Miyashita M, Watanabe G, Tada H. The addition of exercise to self-lymphatic drainage programs improves BCRL related symptoms, 25th World Congress of Lymphology; 2015 Sep 7-11; San Francisco.

【緩和ケア看護学分野】

10. Sato Y, Miyashita M, Fujimori K, Nakaya J, Fijimoto Y, Kurihara M, Sato K, Ishioka C. Quality indicators of end-of-life cancer care in a Japanese university hospital. 11th Asia Pacific Hospice Conference 2015 apr 30 - May 3, Taipei, Taiwan.

【精神看護学分野】

11. Yoshii H. Effects of an education program on improving schizophrenia knowledge, stigma, and help-seeking behavior among parents of adolescents in Japan: a prospective study.
12. The third international integrated conference on psychiatry & allied sciences. 30-31 May 2015. Chandigarh, India. Invited lecture.

13. Yoshii H. Stigma in psychiatry. National institute of mental health Dhaka, Bangladesh. 4 June 2015. Bangladesh. Invited lecture.

【周産期看護学分野】

14. Ayumi S, Kineko S, Nobuko O, Kiyomi K, Emiko T. Postpartum Depression after the East Japan Great Earthquake; WAIMH 14th World congress in Edinburgh (Poster), 2014.6.14-18, Scotland
15. Hiwatashi M, Sato K, Oyamada N, Sakata A, Kumagai K, Takazawa R. The current situation of child caring couples at three years after the Great East Japan Earthquake. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015; 2015, July 20-22; Yokohama.
16. Oikawa M, Sato K, Oyamada N, Sakata A, Kumagai K, Atomura K. Mental health status of workers at hospitals three years after the Great East Japan Earthquake. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015; 2015, July 20-22; Yokohama.
17. Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Concerns of pregnant women: assessment after typhoon Yolanda (Haiyan) in the Philippines. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015; 2015, July 20-22; Yokohama.
18. Sakata A, Sato K, Oyamada N, Oikawa M, Hiwatashi M, Takazawa R. Parental Mental Health Three Years after the Great East Japan Earthquake. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015; 2015, July 20-22; Yokohama.
19. Sakata A, Sato K, Oyamada N, Takahashi E, Kumagai K, Sato M. Maternal Mental Health at three Years after the Great East Japan Earthquake. 6th World Congress on Women's Mental Health; 2015. March 22-25; Tokyo.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

20. Nakamura Y, Ito N, Sakai Y, Sugiura M, Yagimori W, Seki S, Kikuchi N, Atogami F, Yoshizawa T. The Prenatal Comfort Scale as a useful tool for measuring the functioning of hospitalized pregnant women's families. The 18th EAFONS; 2015 Feb 5-6; Taipei. Abstract Book Poster Presentation 69-70
21. Nakamura Y, Atogami F, Monma Y, Yoshizawa T. Development of a teaching strategy for undergraduate nursing and midwifery students: Learning how to cope with postpartum hemorrhage through scenario-based simulation training, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015; Jul 20-22; Yokohama, JAPAN
22. Yoshida A, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Sentiments of women while waiting for Non-Invasive Prenatal Test results, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015; Jul 20-22; Yokohama, JAPAN
23. Yoshizawa T, Hojo M, Okuyama T, Atogami F, Nakamura Y, Tanaka M, Shindo S. Qualitative Evaluation of perineal Support Care during the Second Stage of Labor. The 18th EAFONS; 2015 Feb 5-6; Taipei. Abstract Book Poster Presentation 237-234.

5-5. 国内学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Sato H, Bao S, Sasaki K, Kanno E, Maruyama R. Sex differences in heart rate variability and circulation in young and elderly volunteers after postural change. 第92回日本生理学会大会; 2015 Mar 21-23; 神戸
2. Bao S, Sato H, Sasaki K, Kanno E, Maruyama R. Low birth weight is a predictor of later hypertension risk for both Japanese and Mongolian healthy young adults. 第92回日本生理学会大会; 2015 Mar 21-23; 神戸

3. 上松野りな, 鈴木愛子, 菅野恵美, 丹野寛大, 高木尚之, 石井恵子, 原博満, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. マウス創傷治癒過程における CARD9 遺伝子欠損の影響. 第 26 回日本生体防御学会; 2015 July 10-12; 東京
4. 丹野寛大, 菅野恵美, 鈴木愛子, 高木尚之, 上松野りな, 石井恵子, 岩倉洋一郎, 中山俊憲, 谷口克, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. NKT 細胞による好中球性炎症反応の制御を介した皮膚創傷治癒の促進. 第 26 回日本生体防御学会; 2015 July 10-12; 東京
5. 高木尚之, 川上和義, 菅野恵美, 丹野寛大, 武田睦, 上松野りな, 石井恵子, 館正弘. IL-17A による好中球性炎症を介した創傷治癒遅延機構の解明. 第 17 回日本褥瘡学会; 2015 Aug 28-29; 仙台
6. 丹野寛大. 創傷における炎症反応の新たな知見: 急性創傷における CARD9 の役割. 第 17 回日本褥瘡学会; 2015 Aug 28-29; 仙台
7. 丹野寛大, 川上和義, 鈴木愛子, 菅野恵美, 高木尚之, 上松野りな, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. NKT 細胞制御による新たな慢性皮膚潰瘍治療法開発への基礎研究. 第 17 回日本褥瘡学会; 2015 Aug 28-29; 仙台
8. 須藤洋子, 菅野恵美, 高橋梯子, 久慈瑞希, 横田佳那恵, 丸山良子, 館正弘. 褥瘡に対する局所陰圧閉鎖療法施行時における創傷治癒と栄養状態に関する考察. 第 17 回日本褥瘡学会; 2015 Aug 28-29; 仙台
9. Kamimatsuno R, Kanno E, Tanno H, Takagi N, Ishii K, Uno K, Kawakami K. Effect of interferon- α/β receptor deficiency on the wound healing in skin. 第 44 回日本免疫学会学術集会; 2015 Nov 18-20; 札幌
10. Tanno H, Kanno E, Suzuki A, Takagi N, Kamimatsuno R, Ishii K, Kawakami Ki. Promotion of wound healing process in skin by activating invariant NKT cells. 第 44 回日本免疫学会学術集会; 2015 Nov 18-20; 札幌
11. Kadowaki M, Yokota Y, Kanno E. The utility of a care map for head and neck radiation dermatitis. 日本放射線腫瘍学会 第 28 回学術大会; 2015 Nov 19-21, 前橋
12. 丹野寛大, 川上和義, 菅野恵美, 高木尚之, 上松野りな, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 創傷治癒過程における NKT 細胞活性化の影響. 第 45 回日本創傷治癒学会; 2015 Nov 29-Dec 1, 東京
13. 上松野りな, 菅野恵美, 川上和義, 丹野寛大, 鈴木愛子, 高木尚之, 石井恵子, 丸山良子, 館正弘. 創傷治癒過程における I 型インターフェロンの影響に関する研究. 第 45 回日本創傷治癒学会; 2015 Nov 29-Dec 1, 東京

【看護教育・管理学分野】

14. 富永真己, 朝倉京子. 病院のソーシャル・キャピタルと倫理に関する組織特性が看護職の職務満足度及び職業的幸福感到及ぼす影響. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
15. 朝倉京子, 富永真己, 佐藤みほ, 渡邊生恵. 看護職の離職意向における職業コミットメントと健康指標の相互作用. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
16. 朝倉京子, 富永真己, 朝倉隆司. 看護職の職務満足度とマグネット・ホスピタルの職場環境特性との関連. 第 74 回日本公衆衛生学会総会; 2015 Nov 4-6; 長崎.
17. 富永真己, 朝倉京子, 朝倉隆司. 病院看護師のための Social capital and ethical indicator の尺度開発. 第 74 回日本公衆衛生学会総会; 2015 Nov 4-6; 長崎.
18. 三浦 恵美, 朝倉 京子. 看護師長が認識する「successful な部署運営」. 第 19 回日本看護管理学会学術集会; 2015 Aug 28-29; 福島.

【老年・在宅看護学分野】

19. 内田留美, 尾崎章子, 西崎未和, 其田貴美枝. 認知症が疑われる独居高齢者の初期対応における地域包括支援センター看護師の関わり. 第 5 回日本在宅看護学会; 2015 Nov 22; 東京.
20. 尾崎章子. 不眠障害に関する診断と治療-今とこれから-地域保健における CBT-I の活用: 日本睡眠学会 第 40 回定期学術集会シンポジウム; 2015 Jul 3; 栃木.

21. 尾崎章子, 其田貴美枝:介護福祉教育における睡眠に関する教授内容の分析・教科書の記述に焦点をあてて. 第 5 回日本在宅看護学会;2015 Nov 22;東京
 22. 尾崎章子:睡眠環境向上型病室の研究と展開 1. 第 44 回日本医療福祉設備学会;2015 Nov 26;東京.
 23. 尾崎章子:研究倫理セミナー. 第 5 回日本在宅看護学会;2015 Nov 22;東京.
 24. 尾崎章子:看護師における交代勤務障害と勤務環境. 第 44 回日本医療福祉設備学会;2015 Nov 25-26;東京.
 25. 尾崎章子:高齢社会と睡眠・老年・在宅看護学の視座から. 第 5 回東北 Aging Science フォーラム;2015 Dec 12;仙台.
 26. 齋藤美華,坂川奈央,東海林志保,下山田鮎美,川原礼子:定年退職前の向老期男性が求める地域とのつながりに関する研究一定年退職後の高齢男性の地域活動参加の準備に向けて一.日本老年看護学会第 20 回学術集会;2015 Jun12-14;横浜.
 27. 齋藤美華,東海林志保:高齢者の「予想される死」における訪問看護師の看取りの現状と認識.第 18 回北日本看護学会.,2015 Aug29-30;仙台.
 28. 齋藤美華,東海林志保,川原礼子:訪問看護場面における高齢者の「予想される死」への看護師による看取りに対する考え.第 26 回日本老年医学会東北地方会;2015 Oct24;仙台.
 29. 其田貴美枝, 尾崎章子, 西崎未和, 笠原康代, 御任充和子:在宅看護学実習中の自転車事故およびヒヤリ・ハット事象に関する研究. 第 20 回日本在宅ケア学会学術集会;2015 Jul 18; 東京.
 30. 東海林志保,齋藤美華,尾崎章子:高齢者へのライフヒストリー・インタビューからの看護学生の学び.第 26 回日本老年医学会東北地方会;2015 Oct24;仙台.
 31. 西崎未和, 尾崎章子:基礎看護教育に退院支援実習を取り入れて. 第 18 回日本地域看護学会; 2015 Aug 2; 横浜.
 32. 森真喜子, 尾崎章子, 森田牧子, 安保寛明:精神障害者の受診開始の経緯と回復のプロセス. 日本看護科学学会;2015 Dec 6;広島.
- 【公衆衛生看護学分野】
33. 井上京子, 今野浩之, 高橋直美, 豊嶋三枝子, 佐藤志保, 槌谷由美子 et al. 「山形発・地元ナース養成プログラム」展開の基礎研究4ー小規模病院等看護師に求められる能力ー. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
 34. 大橋由基, 田口敦子, 大森純子. 男性保健師の職務経験の特徴に関する文献的検討. 第 74 回日本公衆衛生学会総会; 2015 Nov 4-6; 長崎.
 35. 大森純子, 三笠幸恵, 三森寧子, 小林真朝, 今村晴彦, 地域への愛着研究会(ワークショップ) 地域の底力の礎“地域への愛着”を育む実践ー遠慮がちなソーシャルキャピタルの発掘と育成ー. 第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2015 Jan 10-11; 神戸.
 36. 小澤涼子, 柴田和恵, 田中さおり, 那須典政. 実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試み 実習終了後の危険予知に対する意識の学年比較. 第 35 回日本看護科学学会学術集会演題集; 2015 Dec 5-6; 広島.
 37. 今野浩之, 高橋直美, 豊嶋三枝子, 井上京子, 佐藤志保, 槌谷由美子 et al. 「山形発・地元ナース養成プログラム」展開の基礎研究1ー小規模病院等利用者の特徴と看護の課題ー. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
 38. 柴田和恵, 田中さおり, 小澤涼子, 那須典政. 実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試み・看護学生の危険予知の実態 第 1 報. 第 46 回日本看護学会看護管理学術集会; 2015 Oct 8-9;福岡.
 39. 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 横川詩織, 田口敦子, 深堀浩樹, 菅野雄介, 矢津剛, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第2報)ー訪問看護師調査による検討. 日本緩和医療学会; 2015 Jun 18-20; 横浜.
 40. 菅原京子, 今野浩之, 志田淳子, 鈴木育子, 柴田ふじみ, 後藤順子. 地域看護管理を主要な目標とした実習の教育方法の検討ー第 3 報ー. 第 74 回日本公衆衛生学会総会; 2015 Nov 4-6; 長崎.

41. 高橋直美, 豊嶋三枝子, 井上京子, 今野浩之, 佐藤志保, 槌谷由美子 et al. 「山形発・地元ナース養成プログラム」展開の基礎研究2ー小規模病院等の現任教育の実態と課題ー. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
42. 田口敦子, 鎌田久美子, 山下眞由美, 森松 薫, 王丸才恵子, 塚本忍. 地域包括ケア実現に向けた在宅医療推進事業評価指標の開発. 第 74 回日本公衆衛生学会; 2015 Nov 4-6; 長崎.
43. 田口敦子, 菅野雄介, 横川詩織, 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 矢津剛, 深堀浩樹, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第1報)ー文献検討ー日本緩和医療学会; 2015 Jun 18-20; 横浜
44. 田中さおり, 柴田和恵, 小澤涼子, 那須典政. 実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試みー看護学生の危険予知の実態(第2報). 第 35 回日本看護科学学会学術集会演題集; 2015 Dec 5-6; 広島.
45. 槌谷由美子, 山田香, 井上京子, 沼澤さとみ, 南雲美代子, 高橋直美, 今野浩之, 遠藤恵子. 看護場面における学生のコミュニケーションの特徴(第一報)ー動作解析ソフトを使用した分析ー. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
46. 豊嶋三枝子, 井上京子, 今野浩之, 高橋直美, 佐藤志保, 槌谷由美子 et al. 「山形発・地元ナース養成プログラム」展開の基礎研究3ー小規模病院等の人事交流の実態とニーズー. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.
47. 村山洋史, 田口敦子, 山口拓洋. 健康推進員主導型の栄養改善プログラム: 高齢期の食品摂取多様性への効果. 第 74 回日本公衆衛生学会; 2015 Nov 4-6; 長崎.
48. 矢津剛, 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 田口敦子, 横川詩織, 深堀浩樹, 菅野雄介, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第3報). 日本緩和医療学会; 2015 Jun 18-20; 横浜.
49. 山田香, 槌谷由美子, 井上京子, 南雲美代子, 沼澤さとみ, 今野浩之, 高橋直美, 遠藤恵子. 看護場面における学生のコミュニケーションの特徴(第二報)ーロールプレイング後の振り返りの分析からー. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島.

【地域保健学分野】

50. Yoshikazu Nishino, Toru Tase, Yuko Minami: Body size and epithelial ovarian cancer risk among Japanese women: a case-control study. 第25回日本疫学会学術総会, 名古屋, 1月 21 日~1月 23 日, 2015.
51. 角川陽一郎, 河合賢朗, 西野善一, 南 優子: 乳癌組織中ホルモン濃度と肥満度, 運動習慣, 飲酒との関連. 第23回日本乳癌学会学術総会, 東京, 7月 2 日~7月 4 日, 2015.
52. Yoko Takizawa, Masaaki Kawai, Yoshikazu Nishino, Yoichiro Kakugawa, Yuko Minami: Alcohol intake and breast cancer risk according to joint estrogen and progesterone receptor status: a case-control study. 第74回日本癌学会, 名古屋, 10月 8 日~10 日, 2015.

【成人看護学分野】

53. 穀田知秋, 佐藤しのぶ, 菊池愛, 吉野恵美子, 佐藤典子, 齋藤明美, 畠山里恵, 菊地史子. 緩和ケア病棟での看護職とリハビリスタッフの協働を考える 第1報-患者と家族の関わりからリハビリスタッフが感じることー. 第 29 回日本がん看護学会学術集会; 2015, Feb, 28-Mar, 1 横浜
54. 吉野恵美子, 菊池愛, 佐藤典子, 穀田知秋, 佐藤しのぶ, 齋藤明美, 畠山里恵, 菊地史子. 緩和ケア病棟での看護職とリハビリスタッフの協働を考える 第2報-患者と家族の思いを聞いた後のリハビリスタッフの気持ちの変化ー. 第 29 回日本がん看護学会学術集会; 2015, Feb, 28-Mar, 1 横浜.

【がん看護学分野】

55. 有永洋子, 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 菊地克子, 各務竹康, 柏倉栄子: 乳がん治療関連リンパ浮腫セルフケアプログラムによる患側上肢体積減少と患者特性との関連. 第 29 回日本がん看護学会学術集会; 2015 Feb 28-Mar 1; 横浜.
56. 片寄友, 佐藤菜保子, 元井冬彦, 中川圭, 吉田寛, 森川孝則, 岡田恭穂, 林洋毅, 坂田直昭, 水間正道, 深瀬耕二, 青木豪, 薮内伸一, 川口桂, 益田邦洋, 岡田良, 内藤剛, 海野倫明: 膝腫瘍術後 12 ヶ月での

健康関連 QOL 尺度 SF36v2 による術式別検討:介入の糸口を求めて, 第 46 回日本脾臓学会大会; 2015 Jun 19-20; 名古屋.

57. 川口桂, 片寄友, 佐藤菜保子, 益田邦洋, 岡田良, 石田晶玄, 藪内伸一, 深瀬耕二, 大塚英郎, 水間正道, 坂田直昭, 中川圭, 岡田恭穂, 森川孝則, 林洋毅, 吉田寛, 元井冬彦, 海野倫明.SF36v2 を用いた脾切除後の QOL 評価. 第 115 回日本外科学会定期学術集会;2015 Apr 18;名古屋.
58. 小室葉月, 佐藤菜保子, 佐々木彩加, 鈴木直輝, 金澤素, 青木正志, 福土審;コルチコトロピン放出ホルモン受容体 2 (CRHR2) 遺伝子における一塩基多型と過敏性腸症候群との関連, 第 80 回日本心身医学会東北地方会;2015 Feb 28;仙台.
59. 小室葉月, 佐藤菜保子, 佐々木彩加, 鈴木直輝, 鹿野理子, 田中由佳里, 山口(加畑)由美, 金澤素, 割田仁, 青木正志, 福土審:コルチコトロピン放出ホルモン受容体 2 遺伝子における一塩基多型、ハプロタイプと過敏性腸症候群との関連, 第 22 回日本行動医学会;2015 Oct 16-17;仙台.(最優秀演題賞).
60. 佐藤菜保子, 佐藤富美子, 片寄友, 中川圭, 元井冬彦, 川口圭, 海野倫明、脾腫瘍患者の手術後 6 ヶ月までの QOL に関する縦断研究, 第 29 回日本がん看護学会学術集会;2015 Feb 28-Mar 1;横浜.
61. 佐藤菜保子, 片寄友, 川口桂, 大塚英郎, 森川孝則, 中川圭, 元井冬彦, 内藤剛, 高木清司, 鈴木貴, 福土審, 佐藤富美子, 海野倫明:脾腫瘍組織における CRH 発現と生存予後の関連, 第 53 回日本癌治療学会学術集会;2015 Oct 29-31;京都.
62. 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 有永洋子:乳がん術後3年までの上肢機能障害予防改善に向けた介入のセルフケア効果, 第 29 回日本がん看護学会学術集会;2015 Feb 28-Mar 1;横浜.
63. 佐藤富美子.乳がん術後上肢機能障害に影響する要因の検討,第 11 回日本クリティカルケア看護学会学術集会;2015 Jun 27-28 福岡.
64. 佐藤富美子,石田孝宣,大内憲明. 乳がん患者の術後 3 か月までの上肢機能障害と QOL に関する縦断的研究, 第 23 回日本乳癌学会学術総会;2015 Jul 2-4;東京.
65. 佐藤富美子, 乳がん術後上肢機能障害予防改善ケア開発への挑戦,.第 13 回日本臨床腫瘍学会学術集会;2015 Jul 16,18;札幌.
66. 二唐史織, 菅原新奈, 三澤瑞紀, 佐藤菜保子:乳がん看護文献における患者の語りの資料を元にした乳がん患者の家族に対する思いのテキストマイニング分析、第 29 回日本がん看護学会学術集;2015 Feb 28-Mar 1;横浜.
67. 横田則子, 佐藤富美子, 佐藤菜保子, 柏倉栄子:外来で化学療法を受けるがん患者の埋め込み型中心静脈ポート留置部位と生活の支障との関連, 第 29 回日本がん看護学会学術集会;2015 Feb 28-Mar 1;横浜.

【緩和ケア看護学分野】

68. 池永昌之, 恒藤暁, 平井啓, 宮下光令, 森田達也. 苦痛緩和のための鎮静に関する家族への説明・ケアについての検討. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 358, 横浜.
69. 岩淵正博, 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 木下寛也. 終末期医療に関する意思決定者の違いの関連要因と受ける医療や Quality of Life への影響. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 257, 横浜.
70. 大石隆之, 高橋雅信, 塩野雅俊, 高橋昌宏, 角道祐一, 森隆弘, 加藤俊介, 下平秀樹, 石岡千加史. 東北大学病院腫瘍内科におけるエベロリムス投与例 6 例の安全性に関する後方視的検討. 日本内科学会雑誌. 2015;104(Suppl.):239.
71. 岸野恵, 木澤義之, 佐藤悠子, 宮下光令, 森田達也, 細川豊史. 大学病院入院中のがん患者の突出痛の頻度に関する予備調査. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 186, 横浜.
72. 佐藤一樹, 三條真紀子, 宮下光令, 森田達也, 岩淵正博, 木下寛也. 遺族による終末期患者の介護体験の評価尺度 Caregiving Consequence Inventory の改訂と非がん患者遺族での信頼性・妥当性の検証. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 317, 横浜.
73. 佐藤一樹, 橋本孝太郎, 鈴木雅夫. 在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者の自宅死亡の関連要因 多施設診療記録調査. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 270, 横浜.

74. 佐藤一樹, 宮下光令, 安部奈津子, 志真泰夫. ホスピス・緩和ケア病棟の看護提供体制と遺族ケアの実態. 第 19 回東北緩和医療研究会, 2015 Oct 31, 18, 郡山
75. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也, 岩淵正博, 木下寛也. 遺族の評価による終末期ケアの質評価尺度 Care Evaluation Scale と終末期患者の QOL 評価尺度 Good Death Inventory の非がん患者での信頼性・妥当性の検証. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 317, 横浜.
76. 佐藤悠子, 宮下光令, 藤森研司, 中谷純, 藤本容子, 石岡千加史. DPC データを用いた東北大学病院の 5 大がん入院患者の終末期がん医療に関する調査. 日本内科学会雑誌. 2015;104(Suppl.):241.
77. 佐藤悠子, 宮下光令, 藤森研司, 中谷純, 藤本容子, 栗原誠, 佐藤一樹, 石岡千加史. 東北大学病院における 5 大癌患者の終末期医療 DPC データを用いた集計方法の検討. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 315, 横浜.
78. 重野朋子, 藤本亘史, 早坂利恵, 高橋寛名, 高橋紀子, 紺野志保, 菅野喜久子, 綱田友江, 佐藤悠子, 佐藤一樹, 宮下光令. がん患者の鎮痛水準を規定する疼痛評価指標の宮城県における多施設パイロット調査. 第 19 回東北緩和医療研究会, 2015 Oct 31, 18, 郡山
79. 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 横川詩織, 田口敦子, 深堀浩樹, 菅野雄介, 矢津剛, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 2 報) 訪問看護師調査による検討. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 271, 横浜.
80. 竹内真帆, 清水恵, 佐藤一樹, 菅野雄介, 杉山育子, 重野朋子, 杉沢真衣, 志真泰夫, 宮下光令. 遺族からみたがん患者の Good Death の達成および終末期のケアに対する全般的満足度の関連要因. 第 29 回日本がん看護学会学術集会, 2015 Feb 28 - mar 1, 横浜.
81. 田口敦子, 菅野雄介, 横川詩織, 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 矢津剛, 深堀浩樹, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 1 報) 文献検討. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 270, 横浜.
82. 中澤葉宇子, 加藤雅志, 吉田沙蘭, 宮下光令, 森田達也, 木澤義之. 緩和ケア施策の達成度を評価するための指標の開発に関する研究. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 454, 横浜.
83. 橋本孝太郎, 佐藤一樹, 鈴木雅夫. 在宅緩和ケアを受けた終末期がん患者の現況調査. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 270, 横浜.
84. 的場康德, 村田久行, 森田達也, 宮下光令, 土屋静馬. 医師に対するスピリチュアルケア研修の評価 前後比較試験. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 225, 横浜.
85. 宮下光令, 今井涼生, 川上祥子, 加藤大基, 中野貴美子, 中川恵一. がん患者の望ましい死・死亡場所の希望と実際 コホート研究による検討. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 454, 横浜.
86. 宮下光令, 菅野喜久子, 佐藤一樹, 高橋都. インターネット・モニター調査による、がんサバイバーの就業状況の変化の経験に関する検討. 第 29 回日本がん看護学会学術集会, 2015 Feb 28 - mar 1, 横浜.
87. 宮島加耶, 藤澤大介, 吉村公雄, 伊藤正哉, 中島聡美, 白波瀬丈一郎, 三村將, 宮下光令. 終末期ケアの質と遺族の複雑性悲嘆の関連. 精神神経学雑誌. 2014(2014 特別):S566.
88. 矢津剛, 白川美弥子, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 田口敦子, 横川詩織, 深堀浩樹, 菅野雄介, 佐藤一樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 3 報). 第 20 回日本緩和医療学会学術大会, 2015 Jun 18-20, 271, 横浜.

【小児看護学分野】

89. 井上由紀子, 渡辺優子, 阿部道代, 大竹 茜, 塩飽 仁. 病気の母親を過度に心配しサポートしたことで食欲不振や不定愁訴を呈した思春期患児の看護支援の検討. 日本小児看護学会第 25 回学術集会; 2015 Jul 26; 千葉
90. 井上由紀子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 名古屋祐子. 子供と家族の意思を尊重した支援のガイドライン作成(第 2 報)小児専門看護師への質問紙調査結果. 日本小児看護学会第 25 回学術集会; 2015 Jul 25; 千葉

91. 井上由紀子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 相墨生恵, 名古屋祐子. 子供と家族の意思を尊重した支援のガイドライン作成(第1報)子供と養育者, 医療者への現状調査報告. 日本小児看護学会第25回学術集会; 2015 Jul 25; 千葉
92. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 小児がん患児を支える父親の心理社会的課題に関する文献検討. 第13回日本小児がん看護学会学術集会; 2015 Nov 29; 甲府
93. 入江 亘, 名古屋祐子, 羽鳥裕子, 吉田沙蘭, 尾形明子, 松岡真里, 多田羅竜平, 永山 淳, 塩飽 仁. 家族向け臨死期のパンフレット「これからの過ごし方一子ども版」の使用可能性の検討. 第13回日本小児がん看護学会学術集会; 2015 Nov 29; 甲府
94. 入江 亘, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 相墨生恵, 木村智一, 菅原明子. 発達障がいを抱えた児童における家族基盤の安定に父親役割を補った看護支援が有効であった事例. 第18回北日本看護学会学術集会; 2015 Aug 29; 仙台
95. 紺野真梨子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 被災した子どもを支援するボランティアの子どもの変化の捉え方及び自己効力感, 内発的報酬の関連. 第18回北日本看護学会学術集会; 2015 Aug 29; 仙台
96. 佐藤幸子, 塩飽 仁, 遠藤芳子, 佐藤志保. 神経症・発達障害児の親支援に関する検討. 日本家族看護学会第22回学術集会; 2015 Sep 5; 小田原
97. 菅原明子, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 入江 亘. 疾患発症を契機に不登校という形で精神的発達課題の葛藤を回避しようとした高校生への看護支援の検討. 第18回北日本看護学会学術集会, 仙台; 2015 Aug 29; 仙台
98. 鈴木千恵, 塩飽 仁, 鈴木祐子. 看護師が認識する子どものターミナルケアの開始を意識する時期についてのインタビュー調査. 第13回日本小児がん看護学会学術集会; 2015 Nov 29; 甲府
99. 鈴木千鶴, 塩飽 仁, 名古屋祐子. 食物アレルギーの子どもをもつ母親が考える支援内容. 第52回小児アレルギー学会; 2015 Nov 2; 奈良
100. 鈴木千鶴, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 横山千恵. 食物アレルギーの子どもをもつ母親の困難感と対処行動. 第52回小児アレルギー学会; 2015 Nov 2; 奈良
101. 鈴木千鶴, 横山千恵, 井上由紀子, 鈴木祐子, 塩飽 仁. 育児期の親性尺度を用いた食物アレルギーの子どもをもつ母親の特性. 第18回北日本看護学会学術集会, 仙台; 2015 Aug 29; 仙台
102. 鈴木祐子, 塩飽 仁, 佐藤幸子, 富澤弥生, 田崎あゆみ, 井上由紀子, 槌谷由美子. 発達障害の子供をもつ母親が子育てに活用している情報や支援(第2報)ーどこからのどのような内容が支えになったと捉えているかー. 日本小児看護学会第25回学術集会; 2015 Jul 25; 千葉
103. 鈴木祐子, 塩飽 仁, 佐藤幸子, 富澤弥生, 田崎あゆみ, 井上由紀子, 槌谷由美子. 発達障害の子供をもつ母親が子育てに活用している情報や支援(第1報)ーどこからのどのような内容が役に立ったと捉えているかー. 日本小児看護学会第25回学術集会; 2015 Jul 25; 千葉
104. 鈴木祐子, 塩飽 仁, 佐藤幸子, 富澤弥生, 田崎あゆみ, 井上由紀子, 槌谷由美子. 発達障害をもつ子供の母親が捉えた子育てにとってネガティブな情報や支援の内容. 日本家族看護学会第22回学術集会; 2015 Sep 5; 小田原
105. 高橋杏里, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 大学生における親性準備性の発達と被養育体験との関連. 第18回北日本看護学会学術集会; 2015 Aug 29; 仙台
106. 名古屋祐子, 塩飽 仁. 医師と看護師が考える終末期の小児がん患者の家族のQOLにおいて大切な内容とその構成概念. 第13回日本小児がん看護学会学術集会; 2015 Nov 29; 甲府
107. 名古屋祐子, 塩飽 仁. 医師と看護師が考える終末期の小児がん患者のQOLにとって大切な内容とその構成概念. 第13回日本小児がん看護学会学術集会; 2015 Nov 29; 甲府
108. 名古屋祐子, 塩飽 仁. 医師と看護師は終末期の小児がん患者・家族のケアに関する相談をどの職種に行いやすいと感じているか. 第18回北日本看護学会学術集会, 仙台; 2015 Aug 29; 仙台
109. 野地麻里, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 大学生の障害者とのかかわり方と障害のイメージの関連. 第18回北日本看護学会学術集会; 2015 Aug 29; 仙台

110. 古川大雅, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 父親の育児参加が母親の育児に対する自己効力感に及ぼす影響. 第 18 回北日本看護学会学術集会;2015 Aug 29; 仙台
111. 三上千佳子, 武田淳子, 木下美佐子, 塩飽 仁, 杉浦美佐子, 原 玲子, 三浦まゆみ. 看護教育機関における災害時の対応及び支援ニーズに関する調査～講義・演習・実習への対応について～. 日本看護学会第 25 回学術集会; 2015 Aug 18; 徳島
112. 横山千恵, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子, 鈴木千鶴. 特別支援学校の看護師が捉えた特別支援学校における看護師の役割. 第 18 回北日本看護学会学術集会;2015 Aug 29; 仙台
113. 吉田知世, 塩飽 仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 小児糖尿病サマーキャンプにおける学生スタッフの役割. 第 18 回北日本看護学会学術集会;2015 Aug 29; 仙台.

【周産期看護学分野】

114. 坂田あゆみ, 佐藤喜根子, 小山田信子. 産後 4 ヶ月の母親のソーシャルサポートに対する認識-被災地域の子育て環境から-. 第 30 回日本助産学会学術集会; 2015 Mar 5-6; 東京
115. 小山田信子. 明治期の産婆テキストから見た産婆活動. 第 30 回日本助産学会学術集会; 2015 Mar 5-6; 東京
116. 樋渡麻衣, 高澤李穂, 佐藤真理, 小山田信子, 佐藤喜根子. 東日本大震災から 4 年後の母親のメンタルヘルス. 第 56 回日本母性衛生学会学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡
117. 及川真紀, 昆 千宜, 菅原小百合, 氏家まり子, 佐藤恵, 佐藤喜根子. A 病院における産後 1 か月目の母親の EPDS の関連要因. 第 56 回日本母性衛生学会学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡
118. 佐藤杏里, 樋渡麻衣, 佐藤喜根子. 出生前診断に対する大学生の認識と意識調査. 第 56 回日本母性衛生学会学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡
119. 佐藤真理, 神垣太郎, 玉村文平, 三村敬司, 平野かよ子, 辻一郎, 押谷仁. 東日本大震災後における被災地保健師活動と課題: 質問紙調査と形態素解析を用いた研究. 第 74 回日本公衆衛生学会総会; 2015 Nov 4-6; 長崎
120. 小山田信子. 明治期の岩手県における看護婦養成事業. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島
121. Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Feeling alienated and guilty: experiences of a PHN working from away from her work place at the time of the Great East Japan Earthquake. The 35th Academic Conference of Japan Academy of Nursing Science, 2015; Dec 5-6; Hiroshima.

【ウイメンズヘルス看護学分野】

122. Kikuchi K, Toyoda M, Endo K, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Characteristics of gaze behavior in mothers during breastfeeding. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島
123. Nakamura Y, Ito N, Kawajiri M, Sakai Y, Yagimori W, Sugiura M, Seki, S, Takeishi Y, Atogami F, Yoshizawa T. Physical activity pattern of pregnant women hospitalized for threatened preterm labor. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島
124. Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Feeling alienated and guilty: Experience of PHN working away from her workplace at the time of Great East Japan Earthquake. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島
125. Takeishi Y, Nakamura Y, Kawajiri M, Atogami F, Yoshizawa T. Reliability and Validity of the short form of the Prenatal Comfort Scale (PCS). 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島
126. Yamaguchi N, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. What does Klinefelter syndrome mean for azoospermic men. 第 35 回日本看護科学学会学術集会; 2015 Dec 5-6; 広島
127. 川尻舞衣子, 中村康香, 加納綾香, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊婦における生活活動に対する保健指導の実態調査. 第 56 回母性衛生学会総会・学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡

128. 武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子:女子大学生における足関節底背屈運動による下肢血行動態の変化, 第 56 回母性衛生学会総会・学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡
129. 中村康香, 伊藤直子, 川尻舞衣子, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子:就労妊婦の就労日と休日における生活活動量の実態調査. 第 17 回日本母性看護学会; 2015 Jun 29; 東京
130. 服部奈都季, 中村康香, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子:「親になること」とはどのようなことか?-妊娠期に焦点を当てた文献検討より-. 第 56 回母性衛生学会総会・学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡
131. 山口典子, 中村康香, 跡上富美, 塚本康子, 吉沢豊予子:精液検査に臨む男性の思い-無精子症の診断を受けた男性の語りから-, 第 56 回母性衛生学会総会・学術集会; 2015 Oct 16-17; 盛岡.

5-6. 外部資金獲得(主任研究) ※2015 年 4 月～2016 年 3 月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美 (主任研究者). 褥瘡・慢性創傷の炎症遷延に関わるダメージ関連分子の同定と炎症制御ケア技術の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.
2. 丸山良子 (主任研究者). 日本人・中国少数民族の出生体重と高血圧発症に関する調査研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar.
3. 丸山良子(主任研究者). 心拍変動解析を用いた全身麻酔後の安全な早期離床の新たな評価指標の確立. 平成 27 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2015 Apr - 2018 Mar.
4. 丸山良子(主任研究者). 超高齢者の術後早期離 床プログラムの開発. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2015 Apr - 2018 Mar.
5. 丹野寛大(主任研究者). バイオフィルム形成慢性創傷に対するリンパ球機能の解明と新規ケア技術への展開. 平成 27 年度科学研究費補助金(研究活動スタート支援). 2015 Aug - 2017 Mar.

【看護教育・管理学分野】

6. 朝倉京子(主任研究者). 看護職員の職業移動と心理社会的/経済的要因に関する縦断的研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2012 Apr - 2016 Mar.
7. 高田望(主任研究者). 看護師の専門職意識を測定する尺度の開発と専門職意識の予測因子の解明(平成 27 年度科学研究費補助金若手研究(B)). 2015 Apr- 2018Mar.

【老年・在宅看護学分野】

8. 齋藤美華(主任研究者). 定年退職後の高齢男性を対象とした地域活動への参加支援プログラムの開発. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2016 Mar

【公衆衛生看護学分野】

9. 田口敦子(主任研究者). 地域における終末期ケアの質向上ツールおよび教育プログラムの開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2014 Apr - 2016 Mar.
10. 大森純子(主任研究者). 地域の底力を高める「地域への愛着メソッド」の汎用性開発. 平成 27 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2015 Apr-2018 Mar.
11. 大森純子(主任研究者). 原子力災害リスクに対する備えの看護職間ネットワーク構築に関するエスノグラフィー. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究(B)). 2015 Apr-2017 Mar.

【がん看護学分野】

12. 佐藤菜保子(主任研究者). CRHR1陽性子宮内膜癌細胞発現におけるストレス影響と遺伝的背景の解明. 平成 23 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2011 Apr - 2016 Mar.
13. 有永洋子(主任研究者). アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.
14. 佐藤富美子(主任研究者). 乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究. 平成 26 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(B)). 2014 Apr - 2018 Mar.
15. 佐藤菜保子(主任研究者). 膀胱癌サバイバーの QOL を高める多様性を持った関わりのあり方に関する検討. 公益財団法人安田記念医学財団 (癌看護研究助成 B) 2015-2016.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年度以降)

16. 宮下光令(主任研究者). がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar.
17. 佐藤一樹(主任研究者). 終末期在宅療養推進のための在宅医療のあり方: Mixed Methods 研究. 平成 27 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2015 Apr-2018 Mar
18. 宮下光令(主任研究者). 進行がん患者の抗がん剤治療の目的の理解度と終末期医療に関する医師との話し合い. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2015 Apr-2017 Mar

【小児看護学分野】

19. 塩飽仁(主任研究者). 発達障害の子どもと家族のための看護支援ガイドラインの開発とその検証に関する研究. 平成 23 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2011 Apr - 2016 Mar.
20. 入江 亘. 慢性疾患の子どもをもつ親の闘病体験と肯定的な心理的変容の関連. 北日本看護学会 研究奨励会 平成 27 年度奨励研究, 2015
21. ・菅原明子. 小児看護に携わる看護師の心理的ケアに関する認識と看護実践の現状. 北日本看護学会 研究奨励会 平成 27 年度奨励研究, 2015.

【精神看護学分野】

22. 吉井初美(主任研究者). 統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2016 Mar.
23. 光永憲香(主任研究者). 早期精神病性障害の初回入院患者に対する心理・社会的介入プログラムの開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(若手研究(B)). 2014 Apr - 2017 Mar.
24. 吉井初美(主任研究者). 精神障害者を対象とした茶道教室普及活動. 公益財団法人倶進会一般助成. 2015 年 10 月～2016 年 9 月

【周産期看護学分野】

25. 小山田信子(主任研究者). 地方における看護教育制度成立過程の研究. 平成 22 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2010 Apr - 2015 Mar.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

26. 吉沢豊予子(主任研究者). 妊娠期における女性のキャリア形成過程を阻止する要因構造に関する研究. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽). 2015 Apr- 2017 Mar.
27. 跡上富美(主任研究者). 女性の妊孕力自己認識と卵巣予備能との乖離の予備調査. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽). 2015 Apr- 2018 Mar.

5-7. 外部資金獲得(分担研究) ※2015 年 4 月～2016 年 3 月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 丸山良子(分担研究者). ハンドマッサージの受け手-実施者双方へのリラクセーション効果の科学的実証. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2018 Mar.
2. 菅野恵美(分担研究者). 創傷治癒における IL-17 の役割と産生制御機構及び慢性創傷における意義. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2017 Mar.
3. 菅野恵美(分担研究者). クオラムセンシング分子による創部 MRSA 感染制御法の開発. 平成 26 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2014 Apr - 2016 Mar.
4. 菅野恵美(分担研究者). Type I インターフェロン による慢性創傷の炎症 制御法の開発. 平成 27 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2015 Apr - 2017 Mar.

【看護教育・管理学分野】

5. 朝倉京子(分担研究者). 病院における組織特性が組織の健康に及ぼす影響: HMO の概念モデルを用いた実証研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.

【がん看護学分野】

6. 佐藤富美子(分担研究者). アロマセラピーとエクササイズを用いた乳がん関連リンパ浮腫自己管理プログラムの効果. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2016 Mar.
7. 佐藤菜保子(分担研究者). 乳がん体験者の生活の再構築を促進する長期リハビリケアプログラムの構築に関する研究. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2014 Apr - 2018 Mar.

【緩和ケア看護学分野】(2009 年度以降)

8. 宮下光令(分担研究者). がん患者医療情報の高度活用による終末期医療・在宅医療の全国実態調査に関する研究. 平成 25 年度 がん開発研究費. 2013 Apr - 2016 Mar.
9. 佐藤一樹(分担研究者). がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立. 平成 25 年度科学研究費助成事業(基盤研究(B)). 2013 Apr - 2016 Mar.

【小児看護学分野】

10. 塩飽仁(分担研究者). 「感情表出(EE)」を用いた心身症・神経症児の親支援モデルの開発に関する研究. 平成 24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2012 Apr - 2016 Mar.
11. 塩飽仁(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
12. 鈴木祐子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
13. 井上由紀子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
14. 名古屋祐子(分担研究者). 被災地の患者と家族を支援するプロジェクト研究—震災と小児がんを経験した家族の語り—. 平成 24 年度震災復興・日本再生支援事業. 2012 Apr - 2018 Mar.
15. 塩飽仁(分担研究者). 思春期・若年成人がん患者・サバイバーへの医療・教育・就労支援に関する国際比較研究. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)海外学術). 2013 Apr - 2016 Mar.
16. 塩飽仁(分担研究者). 災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.
17. 鈴木祐子(分担研究者). 災害時における小児在宅療養者と家族の自助力を高めるための看護支援プログラムの開発. 平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2013 Apr - 2017 Mar.

【精神看護学分野】

18. 齋藤秀光(分担研究者). 統合失調症患者の口腔衛生に関する意識・知識・自己管理の現状と衛生指導要項の確立. 平成 25 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2013 Apr - 2016 Mar.
19. 吉井初美(分担研究者). 子育て支援としての子育て期女性の健康指標の策定. 平成 26 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2014 Apr - 2017 Mar.

5-8. 外部資金獲得(その他) ※2015 年 4 月～2016 年 3 月

【公衆衛生看護学分野】

1. 田口敦子(主任研究者). 滋賀県内訪問看護ステーションの総合的な支援に関する調査. 滋賀県平成 26 年度訪問看護総合支援事業費補助金. 2015 Jan-Mar.

【周産期看護学分野】

2. 佐藤喜根子(主任研究) 妊婦における温泉浴の安全性の検証「一般財団法人 日本健康開発財団」2015. Aug-2016.March

【ウイメンズヘルス看護学分野】

3. 中村康香(主任研究者). 就労妊婦の日常生活における活動量と妊娠への影響に関する調査. 財団法人ヘルス・サイエンス・センター助成金(2014 Dec- 2015 Nov)